

2022一般職 採用案内

先輩からのメッセージ



CONTENTS

くらしの中に総務省

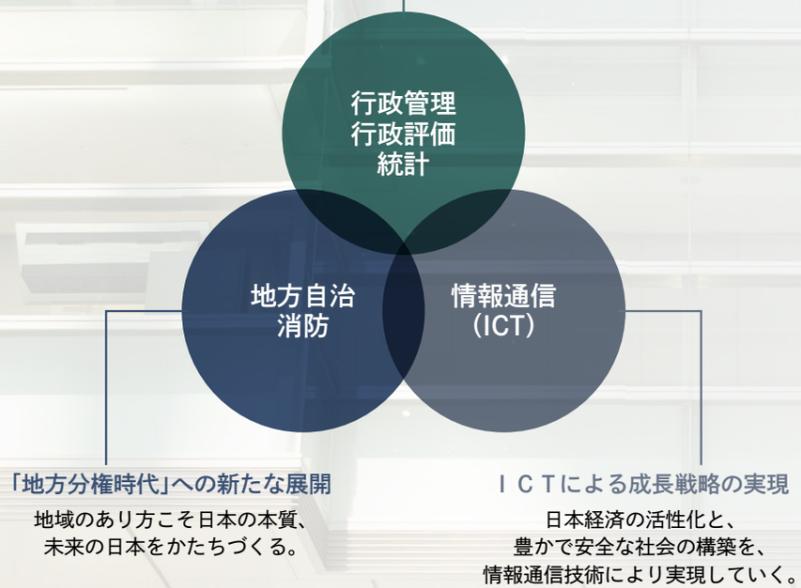
総務省は、日本全国にわたる基本的な仕組みから、国民の経済・社会活動に関わる諸制度を担う、国家の根本を支えている省庁です。

その所掌範囲は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治(地方分権改革・地域活性化)や消防・救急行政、情報通信技術(ICT)を活用した成長戦略の実現と、多岐にわたっています。

少子・高齢化の進展、地域間格差の拡大、国際競争力の強化など、我が国は多くの課題に直面しています。

今後も私たちは、「総て」を「務める」省庁として、総合性を生かしながら、我が国の行政を担っていきます。

国家行政のマネジメントとその改革
 国家行政をマネジメントする機関にしか、実現できない改革がある。



幹部職員インタビュー

- P03-P04 ■ 自分の仕事に誇りを持てる職場
北陸総合通信局長 蒲生 孝
- P05-P06 ■ エビデンスに基づく意思決定が行われる社会のために
統計局統計調査部国勢統計課調査官 永井 恵子
- P07-P08 ■ 意志あるところに道は開ける
自治行政局公務員部福利課数理官 春原 善幸
- P09 入省からのキャリアパス
- P10 研修制度

先輩からのメッセージ(放送・情報通信・郵政行政)

- P11 ■ デジタルインフラを巡る世界のうねり……亀海 英之介
- P12 ■ ICTの切り口で、地域への貢献を。……安齋 佐和
- P13 ■ 今を見つめ、未来を創る……五味 佑介
- P14 ■ 見えないモノをカタチにする仕事……鈴木 勝裕

先輩からのメッセージ(行政制度の管理運営)

- P15 ■ 行政の現場をみつめ、世の中の役に立つ……田原 真人
- P16 ■ 社会の役に立つ仕事を……佐藤 理
- P17 ■ より良い行政の実現に向けて……原 梨花
- P18 ■ 継続する力ー過去に学ぶ今の姿ー……安武 誠

先輩からのメッセージ(地方自治行政)

- P19 ■ 私たちの代表を決める……河野 祐二
- P20 ■ 人脈や経験を武器に、よりよい地方を描く……齋野 映輔
- P21 ■ 社会をかたち創る「税」……中川 裕敬
- P22 ■ 災害に備える……早勢 浩希

P23若手職員対談

- 「若手でも意見を発信できる風通しのよい環境がモチベーションに繋がっています。」
- 行政評価局評価監視官(法務、外務、経済産業担当)室……野尻 真帆
 - 統計局統計調査部国勢統計課指導係……渡邊 空
 - 自治行政局地域政策課……宮崎 泰生
 - 情報流通行政局郵政行政部貯金保険課……田中 空

若手職員の1日、1カ月、1年

- P26 ■ 先輩の1日 放送制度の在り方を考える1日……横山 洋侃
- 先輩の1カ月 地方税制度の一端を担う1ヶ月……若山 優希
- 先輩の1年 社会生活基本調査実施に向けた1年……渋谷 恵利花

先輩からのメッセージ(地方自治体・出向・海外)

- P27 ■ 人々のくらしと行政をつなぐ……加藤 鞠花
- 地域におけるICT利活用の推進……新井 篤史
- P28 ■ 福島県南相馬市のチャレンジにご注目ください!!……常木 孝浩
- P29 ■ 総務省というところ……西川 謙太
- 地域の実情を知る……大林 崇人
- P30 ■ 地方で経験と想いを育む……石井 沙織
- 国から地方を、地方から国を考える……渡邊 千晴
- P31 ■ 未来の行政のカタチを作る……藤田 浩輔
- 得意が活かせる場所……鶴島 元樹
- P32 ■ 3度目の出向で感じること……定光 貴史
- 災害大国ニッポンに向き合う……矢澤 秀訓
- P33 ■ ニューヨークの国連本部から……新垣 真輝
- アメリカで日本の地域を想う……柿本 克俊
- P34 ■ 海外で日本を考える……小林 信一
- デジタルハブを目指すチリにて……奥石 美和
- P35 ■ 多様な経験を通じて得られるもの……笠井 英和
- P36 ■ フランスで振り返る7年間……小嶋 麻友

ワークライフバランス

- P37 総務省におけるワークライフバランスの推進
- P38 産休・育休を経たキャリアプラン
■ 柔軟な働き方で仕事と子育てを両立する……古屋 翔子

P39 採用案内

P40 採用チームからのメッセージ

P41-P42 総務省の組織、連絡先

自分の仕事に誇りを持てる職場

総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

私が入省した1985年は、通信事業の改革法案が施行され、電電公社が民営化しNTTが誕生した年です。これから通信分野が大きく変わっていく中で、通信によって豊かで便利な国民生活を実現する政策立案に国家公務員として携わりたいと思い、当時の郵政省を志望しました。また、当時は郵政民営化前でしたので、国民生活に身近な郵便局（当時の郵便局は国営（郵政省）でした）に携われることにも魅力を感じました。

他にも放送や電波など幅広い分野の業務がありますが、たくさんのやりがいのある業務に携われることで、自分の仕事に誇りが持てるのではないかと思います。

これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

どの業務も苦労はありましたが、同僚に恵まれ、楽しく仕事をさせていただきました。その中でも、全国どこでも電話が繋がるようにするためのユニバーサルサービス基金制度の創設に携わり、より便利で安心できる暮らしを支えるために、国として何をすべきの議論を交わした日々はとても印象に残っています。

また、南米にある在パラグアイ大使館への出向も経験しましたが、情報通信だけでなく、医療や農業など様々な分野の資金

協力に取り組み、国家公務員としての視野が広がりました。現地での生活も貴重な経験で、印象に残っていることがたくさんあります。



現在、携わっている業務について教えてください。

私の在籍する北陸総合通信局は、情報通信行政を所管する総務省の地方の窓口として、北陸3県（富山県、石川県、福井県）を管轄しています。地域が必要とされる施策をつくるためには、地域のニーズの把握が欠かせないので、日頃から、自治体や企業等様々な方との意見交換を行っております。また、総務省の地域の営業マンとして、地域視点に立った総務省施策を隅々まで届けるための活動を行っています。

また、石川県の観光特使も務めています。酒と魚の美味しい石川県に是非お越し下さい。

情報通信分野での総務省の役割を教えてください。

総務省の情報通信分野は、通信、放送、郵便、サイバーセキュリティなど、国民生活に密着した幅広い業務を担っています。近年では、新型コロナウイルス感染症をきっかけに日常生活が一変し、オンライン授業やテレワークなどでICTを身近に感じる機会が多かったと思います。今後の「新たな日常」を構築するには、社会全体のデジタル化が重要なカギとなります。そのためには、光ファイバの整備、遠隔医療等のICT利活用の推進、最先端の5G、AI、DXなど、全ての国民に質の高い情報通信サービスを提供できるようにすることが総務省の役割です。

情報通信分野でのやりがいについて教えてください。

情報通信分野の仕事は、インターネットやスマートフォンなど国民生活の基盤となるものです。そのため、プレッシャーはありますが、国民の皆様の役に立っていることを実感するような仕事や達成感が得られる仕事がたくさんあります。また、情

報通信分野は技術の進歩に合わせて、知識をアップデートする必要がありますが、それと同時に、新たなことにチャレンジできる分野でもあります。デジタルネイティブの皆さんが、これまで身につけた知識や経験を活かしながら、より良い国民生活を創造することは、確かな成長とやりがいを感じることができると思います。

受験者へのメッセージをお願いします。

私が北陸総合通信局長として常に考えていることは、「それぞれの職員が自分の仕事に誇りを持てるようにしたい」ということです。総務省には、情報通信に限らず多様な仕事がありますが、どの仕事も国民生活をより良くすることにつながるものです。「国民生活をより良くしたい」、「誇りを持って働きたい」という志がある方、ぜひ一緒に働きませんか。



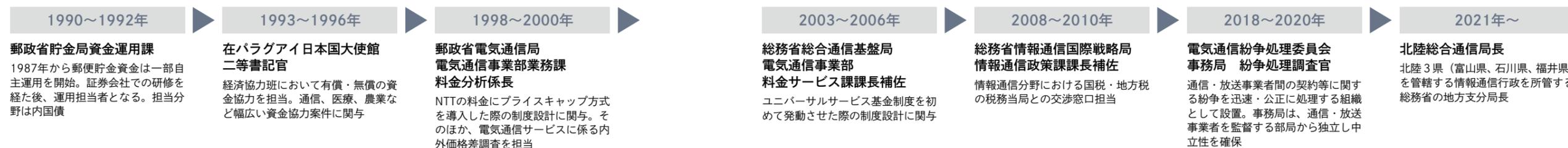
北陸総合通信局長

蒲生 孝

Gamo Takashi

金沢城公園にて撮影
背後の建物が、北陸総合通信局が入居する金沢広坂合同庁舎

入省後の略歴と職務内容



エビデンスに基づく意思決定が行われる社会のために

総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

お恥ずかしい話ですが、最初は、漠然と「安定している」とか「試験に受かりさえすれば入れる」という理由で国家公務員を目指していました。統計局は大学からも近く、場所になじみがあったので、どんなことをしている所なのだろうかと興味を持ちました。実際に、いくつか官庁訪問をする中で、一番、雰囲気やゆったりしていたこと、特定の行政分野に偏らず広い視野を持って仕事にあたれそうだと感じたことがきっかけです。

これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

ひとつだけ選ぶとしたら、消費者物価指数（CPI）の基準改定でしょうか。CPIはモノやサービスの価格を総合的に表す指標で、金融政策や年金額の改定などに使われています。5年に一度、作成方法を見直す基準改定が行われますが、係長として担当した際は、責任と重圧を感じる一方でその面白さにのめり込みました。当時は常に「どうしたら、真の姿に近づけるのか」と考えていたように思います。公表した際には、巷で予想されていたよりも指数が大きく下がったことから、「CPIショック」と騒がせたのも非常に良く覚えています。

現在の携わっている業務について教えてください。

現在は、国勢調査、人口推計、住民基本台帳人口移動報告の公表及び研究分析業務を担当しています。国勢調査は、我が国に常住する全ての人及び世帯を対象とする調査で、その結果は、法定人口をはじめ多岐にわたって利用されています。5年に一度実施される国勢調査の間の年及び月の人口を他の統計を利用して推計するのが人口推計、住民票の転入届の情報から国内の

移動状況を明らかにするのが住民基本台帳人口移動報告です。これらの統計の公表にあたり、結果についての分析や、わかりやすく伝えるためのレポートの作成なども行っています。

統計分野での総務省の役割を教えてください。

我が国の統計機構は、各府省がそれぞれの施策に必要な統計を作成する分散型となっており、総合調整の役割を総務省政策統括官（統計制度担当）が担っています。一方、私のいる統計局は、統計作成部局として、公的統計の中でも、国勢調査を始めとする国の基本的で重要な統計調査の企画・実施、統計の作成・提供を行っています。最近では、担当する統計のみならず、公的統計全体が社会に役立つ正確な統計であるための手助けをする役割も求められているように感じます。また、社会に統計的なものの見方を広めるような活動も行っています。

統計分野でのやりがいについて教えてください。

統計調査を担当していると、調査の対象となった世帯の方から「何の役に立つんですか」と問われることがよくあります。統計は、直接的に何かの役には立ちません。しかし、ものごとを判断するための材料やものさしとして、行政における利用だけではなく、社会のための情報基盤として、全ての方に役立てていただけるものだと考えています。専門的、中立的な立場からそういったものに携われることがやりがいだと思います。また、個人的にはデータから社会の状況が分かることに面白さを感じています。

受験者へのメッセージをお願いします。

エビデンスに基づく意思決定が求められており、社会における統計の重要性はますます高まっています。統計というと、理

系でないと難しいと思うかもしれませんが、いろんなバックボーンをもった職員がいますし、私自身も文系学部出身です。専門性は研修等で身につけることもできますし、海外への対応など、様々な業務がありますので、構えずにいろんな方に志望して欲しいと思います。また、職員は女性が多く、テレワークや休暇の取得しやすさ、自由に意見の言いやすい雰囲気など、働きやすい環境が整っていると思います。



統計局統計調査部
国勢統計課調査官

永井 恵子

Nagai Keiko

入省後の略歴と職務内容



意志あるところに道は開ける

総務省への入省を志したきっかけを教えてください。

「まちづくりに携わりたい。自分の理想の街をつくりたい」。これが私の夢、公務員を目指した理由です。

元々は地方公務員志望でしたので、地方自治体への就職と本当に悩みました。

決め手は、将来現場で自分がやりたいことを実現するために、行政マンとしての確たる「土台」がないといけないという思いでした。仕事はハードかもしれないけれど、業務を通じて制度を学び、ここでしか経験できないことが自らの成長につながるのではないかと、そう考えたためです。

これまでで、もっとも印象に残った業務を教えてください。

福利課企画係長時代に携わった幾度もの法令改正です。

法令改正に当たっては内閣法制局の厳しい審査を受けなければいけません。しかしそれまでの私は法制執務の経験ゼロ。しかも所管している地方公務員等共済組合法は、数ある法令の中でも難解な年金・医療保険の法律。

内閣法制局の審査では毎回入念に準備して説明に臨むも、思いもよらない鋭い質問に汗びっしょりになりながら対応することもしばしば。自分のふがいなさに悔しい思いも何度もしました。

一方で、これら一つ一つ乗り越えていく中で「ここで培った、法令を読み解き適切に運用する力は今後必ず自分の強みになる」と自信をつけたのも事実です。

地方自治体出向時の経験を聞かせてください。

「最初の2～3ヶ月間で目に見える成果を出さないと、市民

から『あの人ではダメだ』と烙印を押され、とてもやりづらくなる」。阿久根市副市長として赴任する際の県関係者からのアドバイス。正直、不安しかなかったです。

思い出深いのは市政の大きな課題であった「サービスエリア等建設構想」。地元経済界の総意で、建設が進む新高速道路に物産館を併設したサービスエリアを建設してほしいという市への要請。赴任当時、要請から1年が経過し停滞していました。

まず着手したのが実現可能性の吟味。制度も一から調べました。

その結果、新たな道の駅整備構想として仕立て直し。防災機能、近隣市町の参画など他にはない強みも盛り込みました。

整備促進を図るための協議会組織も立ち上げ、赴任から3ヶ月が経過した、とある宴席でのこと。商工会議所会頭から「実現に向けた大きな一歩だ！さすがだ」と皆さんの前で高く評価していただき、「成果を認めてもらえた」とほっと胸をなで下ろしました（笑）

役職がステップアップする中で、係員時代と比べてどんな違いがありますか？また、お仕事をやる上で心がけていることはありますか。

大事にしているのは「チームワーク」です。

特に政府全体の大規模な法改正で痛感したのは、限られたマンパワーであっても決められた期限までに必ず仕上げなければならないこと。係長として今、誰に何を指示して自分自身は何をすべきか。そのことを常に考えながら自らも走る、そんな毎日でした。

これは副市長時代も変わりません。一人で出来ることは限られているし、私一人で突っ走ってもいけない。大事なのは組織としていかにパフォーマンスを発揮するか。そこで副市長室にホワイトボードを持ち込み、職員と一緒に議論する場を大切に

しました。「どうすればうまくいくか」をみんなで考え、そして失敗を恐れず実行に移す。全国公開された映画のロケ地誘致成功とフィルムコミッションの立ち上げ、各家庭への保健師の担当制による子育て支援コンシェルジュ事業の創設、国保診療所の経営黒字化への取組など副市長室から多くの施策が生まれました。

受験者へのメッセージをお願いします。

私は「人生に無駄なし」だと思っています。

将来何がどこで役に立つかわからない、だから、どんな仕事でも与えられた環境でまずはやってみる、目の前のことに全力で取り組む、そんな姿勢が大事だと思っています。

まちづくりに携わることが私の夢でしたので、市職員とともに議論し一緒に汗を流した副市長の4年間は、かけがえのない、まさに夢の時間でした。

「意志あるところに道は開ける」。次は是非、あなたの夢をかえてください。



自治行政局公務員部
福利課数理官

春原 善幸

Sunohara Yoshiyuki

入省後の略歴と職務内容

2001年～2002年

奈良県企画部地域政策課、
総務部市町村課

県庁は奈良公園の隣で、窓の外に見えるのは興福寺の五重塔。明日香村整備計画など古都奈良ではの業務に従事

2005年～2006年

総務省自治行政局選挙部
管理課選挙啓発係長

大手広告代理店とタイアップ、メディア・広告媒体を駆使した選挙啓発事業を展開

2006年～2008年

国土交通省都市・地域整備局
企画課企画第二係長、
まちづくり推進課
担い手活動推進係長

民間企業による都市再生プロジェクトに対する支援。完成物件を眼前にして思うのはこれぞ「地図に残る仕事」

2009年～2012年

総務省自治行政局公務員部
福利課企画係長

社会保障・税一体改革、被用者年金制度の一元化…法令改正と国会対応と各省調整へと奔走

2014年～2015年

総務省自治行政局公務員部
公務員課給与与能率推進室
主幹・課長補佐
(併任)安全厚生推進室課長補佐

東日本大震災の復興に従事する自治体職員のメンタルヘルス対策事業の創設。国会議員レク対応も経験

2017年～2020年

鹿児島県阿久根市副市長

人口約2万人の港町。まちのどこに居ても市民から気さくに声をかけられる。人の温かさに触れた4年間

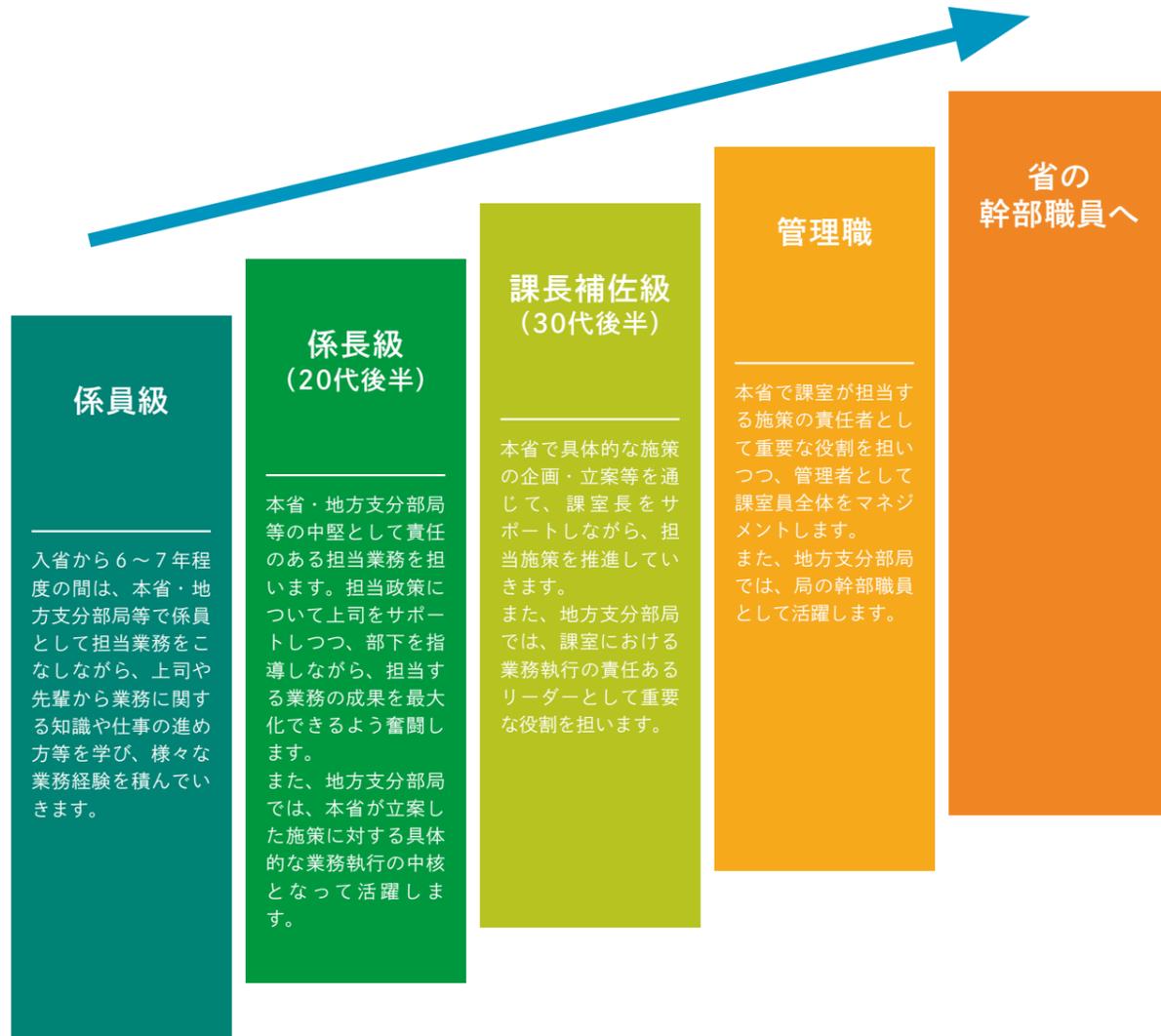
2021年～

総務省自治行政局公務員部
福利課数理官

地方公務員の共済制度における保険数理部門を担当。資金運用に関する知識も習得中

入省からのキャリアパス

入省後は、係員・係長・課長補佐等とキャリアを積み重ねながら、主に特定分野の業務（例えば行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信など）を中心に担当します。概ね2～3年に一度人事異動があり、また、本省と地方支分部局との人事交流、地方自治体への派遣、他府省庁や在外機関への出向、国内外の大学等への留学など、多様な経験を積む機会があります。



他省庁や地方自治体等への出向

他の政府機関、地方自治体、独立行政法人等への出向を通じて、様々なもの見方や考え方を身につけるとともに、業務の提携・連携を深めます

留学制度

国内外の大学等で、専門的または国際的な知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究を行います。

在外公館等への出向

世界各地の在外公館や国際機関等に出向して、外交官や国際公務員として活躍しつつ、国際的な視点から、我が国及び総務省の業務を推進します。

研修制度

総務省では行政官としてのキャリア形成をサポートするため、地方公共団体、民間企業や国際機関との人事交流、国内外の大学等で知見を高めつつ、総務省の行う政策等に資する研究等、多様な経験を積む機会が用意されています。また、数カ月に渡って長期的に実施されるものから、数日で集中的に学習するものまで、様々な研修が用意されています。

階層別研修



現在や将来の役職に相応しい知識や技能習得のため、新規採用職員から、係長級、課長補佐級、課長級等、職位に応じた様々な階層別の研修を実施しています。

例えば入省直後に実施される新規採用職員研修では、省内各部署で実際に業務を担う職員から、部局の現状と課題や、所掌する行政分野を取り巻く状況を学ぶとともに、様々な講義を通じて、社会人として働く上で必要となるビジネスマナーや論理的な思考能力を養い、服務やコンプライアンス、情報公開制度、政策評価等、国家公務員として相応しい知識と教養を身に付けていきます。

専門分野研修



総務省の幅広い行政分野に対応するため、各分野の専門的なスキルを身につけるための研修も豊富に用意されており、職員のニーズにあわせてスキルアップしていくことが可能です。

例えば統計分野では、統計研修所を有し、統計の基礎知識から統計理論、統計分析まで幅広い研修課程を設けているほか、情報通信分野では、情報通信政策研究所にて、ICTの基礎知識を学ぶ総合研修、無線通信やサイバーセキュリティ等の特定テーマを学ぶ様々な専門研修を受講することができます。

また、eラーニングやビデオ教材の活用にも取り組んでおり、業務が忙しい職員でも研修を受けやすい体制が整備されています。

語学研修



総務省の所掌する行政分野においても、国際業務は年々拡大しています。この状況に対応し国際舞台で活躍する職員を育成するため、総務省独自に英語等の語学研修を毎年実施しています。

日常の業務で外国人とやりとりがあり、コミュニケーションを円滑にしたい、海外赴任や海外留学に備えて勉強をしたい、国際会議への出席に向けて発言の練習をしたい、将来に向けてスキルアップを図りたいなど、様々なニーズを持つ職員がこの研修を受講し、語学力を高めています。



国際戦略局国際展開課企画係長

亀海 英之介

Kamegai Einosuke

平成23年10月 総務省採用
 情報通信国際戦略局通信規格課
 平成24年8月 大臣官房総務課
 平成26年8月 情報通信国際戦略局国際政策課
 平成28年7月 自治税務局市町村税課
 平成30年4月 国際戦略局国際政策課主査
 令和2年1月 併任 国際戦略局国際政策課
 テンタル国際戦略室
 令和3年7月 現職



情報流通行政局地域通信振興課主査

安齋 佐和

Anzai Sawa

平成18年4月 総務省採用
 情報通信政策局総務課
 平成18年8月 大臣官房企画課
 平成20年7月 情報流通行政局放送政策課
 平成22年7月 総合通信基盤局電波部電波政策課
 国際周波数政策室
 平成24年5月 情報流通行政局地上放送課
 デジタル放送受信推進室主査
 平成24年8月 情報流通行政局衛星・地域放送課
 第一業務係長
 平成26年8月 衆議院調査局総務調査室調査員
 平成28年7月 総合通信基盤局電気通信事業部
 事業政策課専門職
 平成29年7月 総合通信基盤局電気通信事業部事業政策課
 プロードバンド整備推進室専門職
 平成30年8月 大臣官房政策評価広報課個人情報保護係長
 平成31年4月 大臣官房総務課主査
 令和2年12月 育児休業
 令和3年4月 現職

デジタルインフラを巡る世界のうねり

戦略を紡ぎ、戦術を磨く

ここ数年でデジタルインフラを取り巻く国際環境は大きく姿を変えており、国際的な枠組みの中で様々な議論が活発に行われています。例えば、国際間のデータ通信量の約99%を支えている光海底ケーブルや5Gは単に整備するだけでなく、ネットワークの信頼性、安全性、透明性を確保することの重要性が有志国の間で共通理解となりつつあります。

こういったグローバルなトレンドを読み解き、日本のICTが世界で活躍できる余地を見つけ、国としての効果的な海外展開支援のあり方を戦略として紡ぐ。さらに、予算施策や官民連携の枠組みを活用して、日本のICT企業に対する後方支援策を磨き、時には政務三役とともに前面に出て諸外国政府と交渉する。これらが、私が国際展開課で取り組んでいる任務のひとつです。刻一刻と変化する状況を目の当たりにしながら、日本の効果的なICT海外戦略について日々、上司や同僚と知恵を絞り出しています。

BIG MACHINE

総務省は巨大な組織であり、大型組織特有の閉じたイメージがあるかもしれません。しかし、想像以上に世界に開けており、能動的に仕事に取り組めるステージがあります。実際、企業やシンクタンク、在外公館等を通じて世界の最新情報が集まり、新しい取組みを打ち出せる環境は非常に恵まれていると思います。

例えば、最近ニュースでもよく耳にする経済安全保障のうちICT分野について、私は、総務省として注力し始めた段階で、有志国とのICT分野における連携構築や5Gの海外展開のための予算施策の創設、世界の光海底ケーブルの敷設状況の調査・分析、米外交専門誌への寄稿を通じた日本の施策の発信といった業務に主体的に取り組むことができ、現体制につながる流れを生み出したことは非常に印象に残っています。皆さんも是非、総務省というBIG MACHINEに乗り込み、エンジンとなって動かしてみてください。きっと新しい景色を見ることができます。

PRIVATE TIME

アクアリウムが趣味のひとつです。以前はアロワナといった大型の熱帯魚を飼っていたのですが、今はベタという小型の美しい魚に夢中です。水槽で繁殖し、100匹近くのこどもたちが生まれました。ベタはオスが泡巣で子育てをします。泡巣から落ちたこどもたちを丁寧に拾い上げていく様子はとてもおもしろくて飽きることなく観察していました。



ICTの切り口で、地域への貢献を。

自治体のICT利活用を推進するために

私は、自治体のICT利活用を推進する業務を担当しています。業務の中心は、自治体でICTを活用する際に、地域課題の解決に精通したアドバイザーの派遣などの支援を行う「地域情報化アドバイザー」制度の運用で、近年知名度が上がってきたこともあり、日々多くの自治体から問い合わせをいただいています。

自治体システムの標準化やAIの活用、セキュリティ対策など、自治体を取り巻くICT環境が目まぐるしく変化中、「標準化にどう対応すればよいかわからない」「AIを導入したいが何から始めればよいのか」と悩む自治体に向け、冒頭のアドバイザー派遣や、AI等の導入ガイドブックの作成・紹介といった支援を行っています。

総務省を希望される方の中には、「地域のために働きたい」という想いの方も多と思います。ICTという分野に特化した形で、間接的ではあるものの全国の自治体を支援することで、地域振興に貢献できることがこの仕事の魅力です。

ICTの変化にあわせて、変化していく職場

学生の頃、官庁訪問で、「自分は飽きやすいから色々な業務を担当したい。日進月歩で伸び代のあるICTであれば、国の業務も時代とともに変わっていくはず。自分が退職する頃には思いもつかないICTの形になっているかもしれない」と言われたことを覚えています。（その頃、テレビはデジタル化の真最中で、ケータイといえば二つ折りでした。）

新しい横文字が出てきたと思ったら、2、3年後にはそれを専門に扱う部署ができ、さらに数年後には当たり前の中に普及している。入省してから十数年が経ちましたが、そんなサイクルを何度も見てきました。働いている場所は変わらないのに、ICTの形は変化し、それに合わせて私たちの業務も変わっていきます。もともと多くの分野を所管する総務省ですが、その業務も時代で変化していくので、自分の興味がある分野、強みを発揮できる分野を見つける機会がたくさんあると思います。是非総務省に興味を持っていただけたら嬉しいです。

PRIVATE TIME

玉ねぎをじっくり炒めてつくる、スパイスカレーにはまっています。最初は基本スパイスだけ揃えるつもりが、色んな香辛料を試したくて買い足していたら、すごい数に…。こどももカレーが大好きで、カレーだと野菜をもりもり食べてくれるので、土日は大量にカレーの素を作ってストックしています。

WEEK SCHEDULE

MONDAY

自治体から提出された地域情報化アドバイザーの派遣申請を審査。

TUESDAY

午前は引き続き派遣申請審査。午後は自治体からのAI導入相談に対応。

WEDNESDAY

自治体AI/RPA導入状況調査の調査項目について、関係部局と意見交換。

THURSDAY

前日の意見交換を踏まえ、外部コンサルと調査の実施手法を打ち合わせ。

FRIDAY

ICTに関する最新動向を省内外で情報収集、メルマガでアドバイザーに共有。





総合通信基盤局電気通信事業部料金サービス課
料金制度係長

五味 佑介

Gomi Yusuke

平成24年 4月 総務省採用
情報流通行政局地上放送課
デジタル放送受信推進室
平成24年 8月 情報流通行政局放送政策課
平成26年 8月 大臣官房総務課
平成28年 7月 情報通信国際戦略局国際政策課
平成30年 4月 情報流通行政局サイバーセキュリティ課
主査
令和 2年 4月 現職



総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
重要無線室重要無線係長

鈴木 勝裕

Suzuki Masahiro

平成16年 4月 総務省採用
情報通信政策局放送技術課
平成19年 7月 総合通信基盤局電波部移動通信課
平成21年 7月 総合通信基盤局電気通信事業部
電気通信技術システム課番号企画室
番号企画係長
平成23年 7月 情報通信国際戦略局国際政策課政策係長
平成25年 6月 外務省在トルコ日本国大使館二等書記官
平成28年 7月 情報流通行政局放送技術課企画係長
平成30年 4月 総合通信基盤局電波部移動通信課
第一技術係長
令和 2年 4月 現職

今を見つめ、未来を創る

低廉で多様なサービスの実現に向けて

皆さんは普段どれぐらい携帯電話を利用していますか？多くの人々にとって、携帯電話は単なるコミュニケーションツールではなく、生活に不可欠な存在となっていると思います。その中で、人々が様々なサービスを低価格で利用できる環境作りが求められており、総務省では、市場での公正な競争を促進する取組を進めています。

最近では、携帯会社間の乗換えを容易にして事業者間の競争を促進するために、乗換え時の手続きや手数料といったスイッチングコストの軽減などを行っています。私は、主に、携帯電話について、端末と通信契約のセット販売時の端末価格の割引や通信料金の割引の条件などが法令に違反していないかの確認、関連するガイドラインや省令の整備等を行い、事業者が公正な競争を行う環境整備の一助を担っています。

日々新たなサービスが提供されるので、その変化に対応していくのは大変ですが、だからこそ、やりがいがある仕事だと思います。

新たな「当たり前」を

私は、入省以降、様々な業務を経験してきましたが、ICTの利活用や国際展開、電気通信、放送など、様々な分野を規制と振興の両観点から経験することができ、また、各分野が人々の暮らしを支える重要な業務であることが総務省の魅力だと思います。

入省から2年ほど、放送分野の制度整備を担当していましたが、当時は、スマートフォンが普及し始めたところで、テレビ番組のネット配信はほとんど行われていませんでした。

その中で、NHKによるオリンピックの一部競技の同時配信を認める制度整備を行い、今やオリンピックだけでなく、様々なテレビ番組が放送と同時にスマートフォン等で視聴できることが当たり前になるなど、人々の暮らしが大きく変わっていきました。

人々の暮らしを支えるインフラである情報通信分野で、皆さんも新たな「当たり前」を作る手助けをしてみませんか。

PRIVATE TIME

休みの日は一昨年誕生した娘と公園で遊んだり、一緒に散歩するなどしています。娘の楽しそうな顔や日々成長する姿を見ると仕事の疲れも吹き飛びます！

また、コロナ流行前は、サッカー観戦やライブに行ったりリフレッシュしていました。いつかは娘も連れて家族でスタジアムに行きたいなと思っています。



見えないモノをカタチにする仕事

電波は国民共有の財産

我々の生活に欠かせない電波。総務省では、社会経済の発展に必要な電波の有効利用を促進するため、研究開発、技術基準の策定・標準化、周波数の割当計画、電波利用システムの利活用や海外展開に係る取組など、様々な政策を実施しています。

私が現在取り組んでいるのは、特に国の機関など公共性の高い分野で利用されている電波の有効利用です。電波は有限であり、特に使いやすい周波数帯には、様々なシステムでの利用ニーズがあります。例え、国の機関などが利用する電波の周波数帯であっても、社会経済の発展に貢献する新たな電波利用ニーズが顕在化する場合は、これを実現するために更なる周波数の有効利用に向けた取組を行うことが必要です。

電波は国民共有の財産ですので、その有効利用を促進するためには、聖域なき改革に取り組んでいくことが求められています。

刺激的で魅力的なキャリアパス

総務省では電波行政のみならず、放送分野に係る政策や、携帯電話やブロードバンドなどの電気通信事業分野に係る政策など、広範な業務に携われる機会があります。様々な分野の第一線で活躍されている有識者等から意見を伺う機会などはとても刺激的ですし、多くの関係者と意見交換を積み重ね、政策立案につなげていくという業務は、とても大変ではありますが、魅力的だと思います。また、他省庁や自治体等への出向により、総務省以外の業務にも携われる機会があり、私自身も外務省に出向し、在トルコ日本国大使館において、現地政府との様々な分野に係る協議・交渉や、日本企業支援に携わるなど、広範な業務経験をさせて頂きました。このように、刺激的で魅力的なキャリアパスを歩めることは、ひいては、ご自身の人生の豊かさにも直結すると思います。まずは、説明会などで、お気軽に総務省にいらしてください。

PRIVATE TIME

仕事では効率性・計画性が重視される反面、プライベートでは、方面だけ決めて旅行・散歩したり、近くの河川でルアーフィッシングしたりなど、自由気ままな趣味を満喫しています。平日も時々休暇を頂戴し妻とランチを満喫するなど、ワークライフバランスに心掛けています。良い仕事をするために、良い休暇が必要不可欠です。

Q 今まで関わりのあった職員で最も尊敬している人は？

A 総務省に採用された時の初めての上司です。「君の仕事はまず色々な人に顔を覚えてもらうことだ」と教わり、とにかく色々な方とコンタクトしました。初対面の方とのコンタクトは労力を要しますが、自分にはない新たな視点や考え方を吸収できますし、交渉の基礎みたいなものを学ぶ機会にもなりますので、皆さんも是非心掛けてみてください。

Q 今までに一番印象に残った仕事はなんですか？

A 私が技術基準や関係法令の策定作業に携った無線通信システムが、実際に市場に導入された時などは、まさに見えないモノがカタチになった瞬間でやりがいを感じました。一番印象に残っていることは、在トルコ日本国大使館での勤務の際に、現地で開催されたG20サミットのとある現場責任者を任せられ、現地政府との苦しい交渉を経て、無事に乗り越えられたという経験や、首脳会談の実施に係る業務に携った経験です。





行政評価局上席評価監視調査官
(厚生労働等担当)

田原 真人

Tahara Masato

平成16年4月 総務省
北海道管区行政評価局総務課
平成18年4月 行政評価局評価監視官付
(客観性担保評価PT)
平成20年4月 行政評価局評価監視官付
(独立行政法人第二・特殊法人等)
平成23年4月 行政管理局企画調整課総務係長
平成25年4月 行政管理局主査(農林水産省担当)
平成26年5月 内閣官房内閣人事局主査(農林水産省担当)
平成26年7月 大臣官房秘書課秘書専門職
平成27年8月 内閣官房行政改革推進本部事務局員
平成29年4月 大臣官房総務課審査・調整第一係長
平成30年5月 大臣官房秘書課人事第一係長
令和2年10月 大臣官房秘書課課長補佐
令和3年4月 現職



行政評価局評価監視調査官(農林水産、防衛担当)

佐藤 理

Sato Takeru

平成24年4月 総務省
関東管区行政評価局総務部総務課
平成25年4月 新潟行政評価事務所行政相談課
平成27年4月 茨城行政評価事務所行政相談課業務係長
平成29年4月 茨城行政評価事務所評価監視調査官
平成29年8月 関東管区行政評価局評価監視部
評価監視調査官
平成31年4月 内閣府国際企画担当主査(政策統括官
(政策調整担当)付参事官
(青年国際交流担当)付)
令和3年4月 現職

CAREER INTERVIEW

行政の現場をみつめ、世の中の役に立つ

係員時代

希望に満ち、行政の現場・社会の仕組みの一端を知る

行政運営の現場に実際に赴くことや、他府省・有識者の方々などとお話をする機会の多い業務に従事し、大学時代に学問として学んできた行政とは違った、実際の行政の現場や社会の仕組みの一端を知りました。当時は大変と感じていたこともあったはずですが、今振り返ると、見ること・聞くことの多くが新鮮という中で、気楽な立場で伸び伸びと(本当に、伸び伸びと)、働く上での基本を学びました。

係長時代

多様な業務に携わり、経験を積む

係長なりたての頃は、東日本大震災の直後であり、緊迫感が漂う中、行政の在り方について考えさせられた時期でした。その後、各府省の組織定員の査定や官房系の業務(省幹部の秘書、法令審査や人事)、内閣官房への出向など多様な業務に従事する機会に恵まれました。一段上がった責任の中で、時には相手府省との厳しい協議など様々な経験を積みながら、行政官としての引き出しを増やしていく時期にもなりました。

今、そしてこれから

世の中の役に立ちたい

今は、総務省に入った動機でもある「行政評価・監視」の業務(政府内にあって、施策や事業の担当府省と異なる立場から行政運営の実態を調査し、課題等を把握・分析し、改善につなげる)に従事しています。自らの仕事が世の中の役に立てるよう、行政の現場を見つめ、自問自答し、議論をしながら、行政運営の改善を一つ一つ積み重ねていきたいと思っています。



MESSAGE

学生だった私は、特定の行政分野に限定せず、各府省の幅広い政策に携わることができる行政評価という仕事に魅力を感じ、この仕事を選びました。やりがいをもって働くことに、動機は必ずしも重要ではないのかもしれませんが、みなさんも、数ある仕事の中から、魅力ある仕事に巡り会えると良いですね。総務省もその選択肢の一つになるのではないかと思います。

社会の役に立つ仕事を

現場の声から行政運営を改善

行政評価局では、政策や行政活動の実態等について、特定のテーマを選定して調査するという業務を行っており、①テーマの選定、②実地調査・分析・とりまとめ、③報告書の作成・勧告、④改善措置状況のフォローアップというのが主な流れとなります。

調査では、地方自治体や民間企業、関係団体等から現場の声を把握し、それを基に改善方策を検討します。自身の仕事がそうした現場の方々や国民の皆様の何かしらの役に立てることができる、やりがいのある業務です。

最近では、勧告後のフォローアップ対応の際に相手機関から「自分たちだけでは把握できていなかった現場の実態や推奨事例をお示しいただき、行政運営の改善につながった」との話があり、業務の意義を実感できたとともに今後のモチベーションになりました。

様々な世界に触れて成長できる

行政評価局では、調査テーマごとに全く違う行政分野を扱います。担当する調査が変わる度に一から勉強するのは大変な点ではありますが、業務を通じて様々な世界に触れることは自身にとっても大きな刺激になります。

これまでの業務では、国立公園に関する調査で山小屋に泊まりながら登山道の実地調査を行ったのが思い出に残っています。また、森林行政に関する情報収集では森林組合等から山林管理の苦労や国への要望をお聞きし、大変勉強になるとともに、こうした声を調査に反映させていきたいと強く思いました。

様々な経験ということでは、総務省では他府省や自治体等に出向できるチャンスも多くあります。私も以前内閣府の「青年の船」などの国際交流事業を担当する部署に出向し、海外に出張したりと国際的な業務に携わることができました。

このように、総務省は様々な経験を通じて成長したいという人にとってはうってつけの環境であると思います！

PRIVATE TIME

時節柄、遠出の旅行が難しいので、週末は妻と都内近郊を観光したり、カフェ巡りをしたりしています。また、テレワーク勤務も多く、平日も余暇の時間も確保できていて、最近はジムに行ったり、韓国ドラマを観ながらランニングをするのにはまっています！

Q 総務省の魅力は何ですか？

A ルーティン業務だけではなく、行政評価局で言えば、調査設計では誰にどのような観点で調査を行うか、とりまとめでは調査結果からどう勧告を導くかなど、どの段階でもすぐには正解の出ない、考える仕事が多くそこが面白いところだと思います。私は入省前、公務員の仕事は決められたことを淡々とこなすというイメージを持っていたので、いい意味で裏切られました。

Q 10年後はどんな仕事をしたいですか？

A 今はどちらかというと、自分の担当する調査項目について全力で取り組むという感じなのですが、上司の方々、調査全体の進捗管理や省内外の調整等を行いつつも、過去の調査での経験等を踏まえて部下の調査項目についても細やかに指導してくれており、私も今後は全体を俯瞰しながら業務を行えるようになりたいです。





行政評価局企画課

原 梨花

Hara Rika

平成30年 4月 総務省採用
行政評価局総務課
令和2年 4月 行政評価局企画課評価活動支援室
令和3年 4月 現職

統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
就業動向指標第一係長

安武 誠

Yasutake Makoto

平成22年 4月 総務省採用
統計局統計情報システム課
最適化調整係
平成23年 4月 統計局統計情報システム課調整係
平成24年 1月 統計局統計調査部国勢統計課
労働力人口統計室企画指導第二係
平成26年 7月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係
平成29年 4月 統計局統計調査部経済統計課解析提供係長
平成31年 4月 現職

より良い行政の実現に向けて

多様性に触れる

行政評価局は、施策や事業の担当府省とは異なる立場から、政策評価の推進、各府省の行政運営に関する調査、及び行政相談に関する業務を実施しています。

そのうち、私は現在、「政策評価に関する基本的事項」及び「各府省の行政運営に関する調査の重要事項」についての調査審議及び総務大臣への意見具申等を行うことを目的に、年に数回開催される、政策評価審議会の庶務業務などを担当しています。政策評価審議会における調査審議を目の当たりにし、様々な意見を取り入れることの重要性を改めて感じる貴重な機会に恵まれ、視野や物の見方も広がったように思います。

また、もちろん周りの方々のお力添えあってこそ、滞りなく会議を開催できるのですが、開催に向けて、会場・対応職員の確保や各種調整、Web会議の設営などの準備を行い、無事に会議が終了したときには、大きな達成感とともにやりがいを感じます。

業務を通じて成長できる職場

私は以前、各府省の行政運営に関する調査における調査計画策定支援のため、予備的調査などを行う部署に所属していました。「行政運営に関する調査」というと仰々しく聞こえますが、一言でいうと、国の仕事は国民のニーズに合っているか調査し、支障があれば改善を促す仕事です。

調査を実施するに当たっては、調査テーマについて、班体制で議論を重ねます。異動当初は先輩方との経験の差に圧倒されていた私も、徐々により良い行政の実現のため、皆で考え、改善策を模索していくところに業務の面白み、醍醐味があると実感することができました。ひとえに、頼れる上司や先輩方が、私の拙い意見を根気強く聞いてくれて、時に厳しく、時に優しく指導してくださったおかげだと思います。

霞ヶ関にいながら、日本全国の現場に寄り添った仕事ができるのは、総務省ならではの魅力の一つだと思います。興味を持たれた方、ぜひ一度総務省へ足を運んでみてください。

PRIVATE TIME

コロナ禍で、趣味だったカフェ巡りができなくなったため、自宅で少し凝った料理に挑戦しています。特に、スパイスカレーは辛さでストレスが発散できるのでオススメです。「○○スパイス」にキッチンが占拠されますが、簡単なものだと20分もかからず作れますので、ご興味ある方はぜひ挑戦してみてください。



継続する力ー過去に学ぶ今の姿ー

今の日本の雇用状況

新型コロナウイルス感染症が日本の雇用にどのような影響を及ぼしたのかご存じでしょうか。総務省では、日本の雇用状況を明らかにするために「労働力調査」を毎月実施し、私はこの労働力調査の公表業務に携わっております。

労働力調査では「完全失業率」などニュースで馴染みのある数値を扱っております。公表日には、記者の方々などから問い合わせがあり、すぐにwebニュースなどで掲載されます。

ここで印象に残っている問い合わせの回答を紹介したいと思います。「2020年4月の結果から、休業者数は597万人と1年前に比べ420万人増加しました。これは、比較可能な1967年12月以降で過去最多、増加幅も過去最大となります。」この内容は、新型コロナウイルス感染症による雇用への影響が、数値として現れた結果の1つだと考えております。日本の雇用状況を正確に伝えることが、今の私の仕事です。

未来へのメッセージ

2020年4月に緊急事態宣言が発令されました。普段、政治や社会状況について情報収集の割合が低い方もこの変化を知ろうとされたのではないのでしょうか。

労働力調査の結果にも様々な変化がございました。この変化は最終的に、今後の日本の筋道を定めるための重要な根拠になります。担当者全員で、社会背景を考慮しながら関連する統計データを分析し、情報を発信していきます。

統計は、施策を行う部署と比較すると緑の下の力持ちのような役割を担います。その中で、最初に数値という客観的情報を多角的に知れることは魅力です。20年後、30年後、その先も今の数値が比較対象になる時期がやってくる可能性は大いにあります。継続的に統計を作成していくことは未来の方々へのメッセージになると思うとやりがいに感じます。統計の業務に興味をもたれた方、是非、総務省をのぞいてみてください！

PRIVATE TIME

まだ幼い娘と公園によく行きます。一緒にブランコに乗ったり、砂場で山を作ったり、シャボン玉も一緒に眺めたりします。子育ては大変なことも多いですが、特別な時間を過ごしています。





自治財政局選挙部管理課選挙管理第一係長

河野 祐二

Kawano Yuji

平成20年 4月 総務省採用
消防庁総務課
平成21年 4月 自治財政局交付税課
平成21年 10月 青森県総務部市町村振興課
平成23年 10月 自治財政局選挙部政治資金課収支公開室
平成26年 4月 自治税務局企画課総務室人事係長
(自治税務局企画課総務室予算係長併任)
平成28年 4月 自治税務局固定資産税課資産評価室
家屋第二係長
平成30年 4月 自治財政局選挙部政治資金課管理係長
令和 2年 4月 現職



自治財政局交付税課検査係長

齋野 映輔

Saino Esuke

平成27年 4月 総務省採用
消防庁総務課
平成28年 4月 自治財政局公務員部公務員課
女性活躍・人材活用推進室
平成28年 10月 滋賀県総務部市町村振興課
平成30年 4月 自治財政局選挙部政治資金課収支公開室
令和 2年 1月 自治財政局財政課(自治財政局財政課
復興特別交付税室員併任)
令和 3年 4月 現職

私たちの代表を決める

日本最大級のイベントを開催します

「入場予定者数^{*1}」約1億人、「開催費用^{*2}」600億円以上。私は、「イベント開催本部^{*3}」で働いています。「開催マニュアル^{*4}」を基に準備を進め、来場者数の増加をねらい、「黄色い箱型マスコット^{*5}」を利用するなどし、イベント周知も行います。

「チケット^{*6}」をお持ちにならなくても入場できますが、お持ちいただくとスムーズに入場できます。「会場^{*7}」はお住まいの近くの集会所や学校などで、会場まで遠い場合は、無料送迎バスや「自動車を使用した移動式の会場^{*8}」もあります。

業務で使用する言葉(下記※参照)を、すこし違う言葉に置き換えてみました。イベントとは、衆議院議員・参議院議員選挙のことで。選挙は私たちの代表を決める民主主義の根幹をなすものであり、選挙を公明・適正に行なうことが今の職場の仕事です。

※1 当日有権者数、※2 予算額、※3 選挙部管理課、※4 公職選挙法、※5 選挙のめいすいくん、※6 投票所入場券、※7 投票所、※8 移動期日前投票所

制度設計に携わるといふこと

公務員の仕事は、法律等の制度に基づいて行われます。総務省での仕事は、制度設計に携わることが多く、私もこれまで「国会議員の選挙等の執行経費の基準に関する法律」や「固定資産評価基準」等の改正業務に携わっています。

その中で特に印象深かったのは、制度改正業務において、大学教授等の専門家や地方自治体職員等が委員となった検討会を開催し、検討会事務局として、検討会での様々な意見を踏まえた制度内容を立案し、改正案をとりまとめました。その際、ある地方自治体職員の委員が「今回の検討会での議論の内容が制度に反映され、これからの仕事が良いものになることを考えると、すごくうれしい。」とおっしゃっていたのを聞いた時、大きな充実感とともに、制度改正は多くの方の「これから」を変えようという責任とやりがいを感じることができました。

PRIVATE TIME

家族(妻・娘3人)と一緒に、近所の公園にお弁当を持ってピクニックに行ったり、山梨県等にキャンプ&温泉に行ったりしています。また、創造性があって、集中でき、自分の好きなものを食べられることから料理が好きで、娘達からは「たらこパスタ」、妻からは「作ってくれるもの何でもおいしい」と言ってもらえます。家族の笑顔が力の源です。



Q 総務省を志望した理由は何ですか？

A 行政に興味を持ったきっかけは、小学生時にゴミ収集作業を見て「この人達の給料はどうやって?」と疑問を持ったことですが、時は流れ、将来の仕事を考えて、人の役に立つ仕事をしたい、自分の住んでいる地域を良くしたい、それなら市役所で働きたいとなりました。ところが、公務員採用試験に向けて勉強する中で、公務員には市町村、都道府県、国とあり、国に勤めることはないだろうと思いつつながら業務説明会に参加したところ、「地方のために国で働く」という総務省職員の言葉に衝撃を受けました。

Q 入省後、成長したと思うことは何ですか？

A 相手の気持ち・立場を理解し、物事を深くまで考えられるようになりました。入省当初は、地方で起きていることを理解することが難しく、目の前の業務を早く終わらせることばかり考えていました。今は、内容をしっかり聞き、資料を調べ、これまでの地方出向等の実体験も参考に、地方で起きていることを頭にイメージしながら、何が問題で、こうしたらどうか、と考えながら業務を進めています。

人脈や経験を武器に、よりよい地方を描く

行政サービスに不可欠なものとは?...

みなさんは「行政サービスを提供するうえで、不可欠なものは何か?」と問われたら、何をイメージするでしょうか。もちろん制度や人材も大事ですが、財源「お金」がなければ始まりません。

自治財政局は、「地方団体が標準的な行政水準を確保できるような地方財源の確保」を使命とし、私が所属している交付税課では、主に交付税の算定を行っています。交付税とは、「地方公共団体間の財源の不均衡を調整し、どの地域に住む国民にも一定の行政サービスを提供できるよう財源を保障するためのもの」です。税収等により行政サービスに必要な経費を賄っている地方団体はほとんどなく、交付税は地方団体にとって重要な財源です。そのため、毎年の交付税の動向は地方からの注目度も高い、シビアな世界です。(みなさん、お金が絡む話には敏感になりますよね? 地方団体も同じです(笑))

ひとつ間違えれば地方団体の財政運営に大きな影響を与えかねない仕事ですので、その責任の重さを感じながら日々の業務にあたっています。

「人脈」と「経験」

総務省では地方自治体から派遣されている職員や他省庁の方と共に働きます。また、自らが地方や他省庁で働く機会もあります。このように異なる背景を持った方と関わる機会が多いこと、ここに総務省の魅力があります。

国家公務員という立場上、大きな視点で物事を見がちですが、我々の成果物は、きちんと機能し、地方の実情に合ったものである必要があります。そのために自分自身の地方赴任の経験、培った人脈を生かした情報収集、実情を肌感覚で分かっている地方職員の方の助言など、様々な「武器」を駆使しながら、業務を行っています。

人脈や経験を礎に、地方に思いを馳せながら仕事をする。こんな刺激的でやりがいのある日々を総務省で過ごしてみませんか?

PRIVATE TIME

休日は身体を動かすことでリフレッシュしています。最近はボルダリングにはまっています。課内の人といくこともあります。職場では見られない意外な一面を見ることも(笑)。冬には同期とスノーボードに行くことも欠かせません! 心身の健康が仕事への活力になっています。

WEEK SCHEDULE

MONDAY

交付税算定方法の大きな見直しを検討。金曜に打ち合わせをセット。

TUESDAY

交付税とは異なる交付金の算定。業務が並行するため、頭の切り替えが重要。

WEDNESDAY

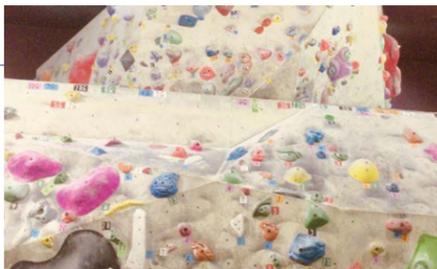
打ち合わせに向けた資料作成。上司と相談しながら作成します。

THURSDAY

資料作成も大詰め。課内にも協力を仰ぎながら仕上げます。

FRIDAY

打ち合わせ当日。検討課題は残りませんが、概ね了解を得られ一安心!





自治税務局都道府県税課法制係長

中川 裕敬

Nakagawa Hiroyuki

平成24年 4月 総務省採用
消防庁総務課
平成25年 4月 自治財政局公営企業課
平成25年 10月 群馬県総務部市町村課
平成27年 4月 群馬県企画部地域政策課
平成27年 10月 自治行政局選挙部政治資金課収支公開室
(自治行政局選挙部政治資金課併任)
平成29年 4月 自治税務局都道府県税課
平成30年 4月 自治税務局固定資産税課主査
(自治税務局都道府県税課併任)
平成31年 4月 自治税務局企画課調査第一係長
(自治税務局企画課外国税制専門官併任)
令和 3年 4月 現職



消防庁国民保護・防災部防災課防災企画係長

早勢 浩希

Hayase Hiroki

平成25年 4月 総務省採用
大臣官房秘書課
平成26年 4月 自治行政局地域自立応援課人材活性化・連携交流室
平成26年 10月 滋賀県総務部市町振興課
平成28年 10月 地方公共団体金融機構経営企画部企画課
(兼 経営企画部リスク管理統括課)
平成30年 4月 自治税務局企画課総務室
平成31年 4月 自治税務局固定資産税課交付金係長
令和 2年 4月 復興庁統括官付参事官付主査
(復興庁大臣室付)
令和 4年 1月 現職

社会をかたち創る「税」

令和時代の税制のあり方

税制とは、社会を支える公共サービスの提供に必要な費用を、国民で分かち合う際のルールです。どこに税源を見出すのか、再分配機能をどの程度効かせるのかなど、税制には、その国の考え方・価値観が色濃く現れ、ひいては私たちの生活に大きな影響を与えます。

戦後、シャープ勧告の基で、所得課税中心の税制がつけられました。平成の時代には、勤労者を中心とする税負担の累増感への対処、社会保障の財源を国民で広く負担する観点等から、所得課税の税率構造を見直すとともに、消費税(国・地方)の導入、その税率の引上げが行われてきました。しかし、社会保険料の負担と相まって、逆進性が強まったとの指摘も聞かれます。

では、令和時代の税制は、どのようなあり方が望ましいのでしょうか。皆さんと一緒に議論する機会を楽しみにしています。

大変革の最中であって

「2050年カーボンニュートラル」。政府が進める重点政策の一つです。

国内のCO2排出量のうち、およそ16%が自動車の走行段階によるものであり、脱炭素社会の実現に向けてこの分野でのCO2削減が求められています。

私が担当している地方の車体課税は、住民に身近な行政サービスを提供している地方団体の貴重な財源となっている一方で、環境性能の優れた自動車の普及を促進するための「環境税制」としての役割も近年強く求められています。

自動車分野の脱炭素化を目指すには、①燃費目標値の引上げ(規制)、②補助金の活用(財政支援)のみならず、③車の購入・保有時の税負担の優遇等(税制措置)を組み合わせることにより、自動車ユーザーの行動変容をより促すことに繋がります。

脱炭素化の他にも、コネクテッド・自動運転・シェアリングなど、自動車産業は100年に一度ともいわれる大変革に直面しています。産業を応援する税制とする一方で、地方団体の財源も守る、難しい舵取りが求められています。

PRIVATE TIME

以前は、買い物や美味しいものを探しに都内に出掛けることが楽しみでしたが、最近は家や近所で過ごすことが増えました。家時間を少しでも楽しもうと、わが家ではBBQセットを新調しました。庭で、美味しいお肉を食べながら家族とのんびり過ごすのも、至福のひとつです。



災害に備える

過去から学び、未来に備える

東日本大震災が発生してから、今年で11年がたちました。この間にも、地震、台風等による被害が毎年のように発生するなど、住民の命が脅かされています。災害による被害を完全に防ぐことはできませんが、それを抑えるために備えることはできます。

私が所属している防災課では、災害時に陣頭指揮を執る地方公共団体が役割を果たせるよう、平時から災害対応体制の確立等を支援するなどして、災害の発生に備えています。

また、発災直後は、被害状況等をもとに的確に判断することが市町村長等に求められるため、これらを対象とした研修を企画するなど、地方公共団体の災害対応力の向上にも取り組んでいます。

防災に関する施策は、過去に発生した災害において明らかになった課題等を踏まえ、随時見直しが行われております。これまでの多くの犠牲が無駄にならないよう、過去の災害から学び、住民の命を守るために未来に備えるのが、私たちの役割です。

地方に寄り添う

総務省で働く魅力は、業務の内容が国民の生活に密接に関わりがあることです。

総務省のキャッチフレーズである「くらしの中に総務省」とおり、総務省では、地方行政、選挙、地方税や消防といった国民の生活を支える業務を所管しています。そのため、自分の業務を通じて、国民の生活を豊かにすることに少しでも貢献できたと思うとやりがいを感じます。

また、総務省では、入省して2年たつと県庁で働く機会があります。私も滋賀県に2年間赴任しましたが、地方公務員として実際に働くことで、地方の現状を、身をもって体験できるのも、総務省の魅力の一つです。

職業を選択する上で、「何をしたいのか」も重要ですが、それと同じくらい「誰と一緒に働くのか」も重要です。総務省には、霞が関にいながらにして、地方に寄り添い、地方のために働いている職員が大勢います。是非一度、総務省にお越しいただき、その雰囲気を感じてください。

PRIVATE TIME

休日は子供たちと近所の公園に行き、滑り台や砂遊びをするなどして、ゆっくり過ごすことが多いです。平日は一緒にいられる時間が短い分、こうした何気ない時間を大切にしたいと考えています。

WEEK SCHEDULE

MONDAY

防災情報通信設備整備費補助金の交付決定に向けて、説明資料を準備。

TUESDAY

消防庁長官への説明に向けて上司に説明資料の内容を説明。

WEDNESDAY

先日参加した茨城県での実証実験の結果について、業者とWEB会議。今後の課題等について確認します。

THURSDAY

防災情報通信設備整備費補助金の交付について、長官へ説明。方針が固まったため、都道府県へ通知する準備をします。

FRIDAY

市町村長向けの研修の方針について、上司に説明。



若手でも意見を発信できる
風通しのよい環境がモチベーションに
繋がっています。



若手職員4名に、
総務省を志したきっかけや
職場の雰囲気などについて、
語っていただきました

野尻 真帆 Nojiri Maho

行政評価局評価監視官（法務、外務、経済産業等担当）室
（令和3年4月入省・一般職事務系）

渡邊 空 Watanabe Sora

統計局統計調査部国勢統計課指導係
（令和2年4月入省・一般職事務系）

宮崎 泰生 Miyazaki Taiki

自治行政局地域政策課
（令和3年4月入省・一般職事務系）

田中空 Tanaka Sora

情報流通行政局 郵政行政部 貯金保険課
（令和2年4月入省・一般職事務系）

まず、簡単に自己紹介をお願いします。

野尻：行政評価局の野尻です。福井県出身で、大学進学を機に上京しました。特技は、大学時代にやっていた少林寺拳法です。本日はよろしくお願いします。

宮崎：自治行政局の宮崎です。出身、大学も共に千葉県で、現

在は東京都に住んでいます。週末は運動のためにジムへ通い、息抜きをしています。

渡邊：統計局の渡邊です。私は愛知県出身で、大学は滋賀県、現在は東京都に住んでいます。週末は通販サイトで服をみたり、友人とゲームをしたりしてリフレッシュしています。

田中：情報流通行政局の田中です。プロ野球中継を観るのが趣味で配信サービスに加入しています。旅行も好きなので、自由に移動ができるようになったら、色々な所へ出かけたいです。本日はどうぞよろしくをお願いします。

現在はどんなお仕事に携わっていますか？

渡邊：私は、5年に1度実施している「国勢調査」について、地方公共団体への指導に関する業務を担当しています。主に、調査方法等の問い合わせ対応や地方公共団体に調査を依頼する資料の作成を行っています。

宮崎：国勢調査は私も回答しました。時間をかけて、綿密に準備されているのですね。

野尻：私も調査関係で、各府省の業務の実施状況を実際に現場に行き調査し、その業務に対する課題を把握・分析し、改善方策を提示する仕事を担当しています。現在は、『一人暮らし

の高齢者に対する見守り活動』の調査結果を取りまとめています。

宮崎：私は、交付金による地域密着型事業の立ち上げを支援する仕事に携わっています。最近はこの交付金がどの程度地域経済の循環に貢献したかを調査し、結果の公表に向けて準備を進めています。

田中：政策の効果がわかるとやりがいに繋がりますよね。私は、ゆうちょ銀行に関する新商品の認可や、郵便局の金融サービスの監督、独立行政法人の監督等の業務に携わっています。最近では、資産運用サービスに関する認可を行いました。みなさんのお話を聞くと、総務省の業務の幅広さを改めて感じますね。

国家公務員を目指した理由は何ですか？また、総務省を選んだ決め手は何ですか？

宮崎：仕事のスケールの大きさです。より良い国にするために、制度から創りあげていくことは国家公務員にしかできないことですし、やりがいを感じられるのではないかと思います。また、総務省を選んだ決め手は、自治部局では、全国の自治体に地方赴任する機会が用意されているところです。私は首都圏以外に住んだことがないので、どの自治体に派遣されるか、今から楽しみです（笑）

渡邊：私も宮崎さんと同じく、一つ決めた事柄が国全体に波及する影響の大きさに魅力を感じ、国家公務員を目指しました。また、大学では統計について学んでおり、その知識を活かした仕事をしたいと考えていました。統計データは国か地方公共団体に問わず、施策を考える際に重要な根拠となるので、精度の高い統計を提供することで幅広い分野の施策に寄与できると感じ、総務省を志望しました。

田中：スケールの大きさは国家公務員ならではの魅力ですね。

渡邊：です。総務省職員の一員として、大学で身につけた知識を活かしつつ、施策のもつ影響力を考えながら、業務に取り組んでいます。

野尻：国民の皆さんの生活を支える責任ある仕事ですが、だからこそ、やりがいを感じますね。私は学生時代に経験した海外生活を通して、日本での生活がいかに便利で幸せなものかということを実感したことがきっかけです。海外に誇れるこの日本の基盤を支える仕事がしたいと思い、国家公務員を目指しました。また、総務省を選んだ決め手は、座談会でした。職員の方

とお話する中で、人柄の良さと温かさを感じました。

田中：実際に職員の方とお話すると印象が変わりますよね。私も説明会に伺った際に、職員の方々の、穏やかでありつつも仕事に前



野尻 真帆
行政評価局評価監視官
（法務、外務、経済産業等担当）室

向きである姿勢を感じたことが、総務省に興味を持ったきっかけです。また、近年、5GやDXなど、特に世間から注目を浴びている情報通信分野に関わることができるという点も大きかったです。最終的な志望先については、国家公務員以外も含め、長期間迷っていましたが、官庁訪問で出会った職員の方と話をすることで、説明会の時よりも更に強く、仕事に対する熱意を感じ、この職員の方々と一緒に仕事をしたいと思ったことが、国家公務員を目指した一番の理由です。

野尻：少しでも興味がある方は、ぜひ説明会に参加してみてくださいね。

田中：実際に話してみても伝わる雰囲気もありますよね。ちなみに、統計や情報通信の部局は、大学時代に専門的な知識を身に着けた職員がほとんどなのではと思う方も多いと思いますが、実際は、事務系・技術系問わず、別の分野を学んでいた職員がたくさんいます。また、入省してからもしっかり研修があるので、安心して仕事に取り組んでいます。

国家公務員の受験勉強で大変だったことは？官庁訪問に向けてアドバイスはありますか？

渡邊：筆記試験の対策が大変でした。科目が多く、全てを完璧に準備しておくのは難しいので取捨選択しながら、スケジュール管理をして、勉強を進めていくことが大事だと思います。

宮崎：筆記試験はやはりハードです。全科目を勉強するのは大変だと思いますので、ある程度割り切って、勉強する科目を絞った方がいいと思います。

渡邊：優先順位とスケジュールを決めて取り組む力は、現在の業務にも活かされていますよね。

宮崎：はい、業務効率を上げるためにもスケジュール管理は大事だと思います。

田中：私は筆記試験後、短期間で面接対策をしたことが大変でした。本番の面接に落ち着いて臨めるよう、大学のキャリアセンターや地域の就活センター等を活用して、とにかく繰り返し練習を行いました。

野尻：自分とは違う視点から意見をもらえるのはありがたいです。私は、予備校に通っておらず、周りに公務員試験を受験する友人もいなかったため、情報収集が大変でした。そのため、積極的に説明会に参加したり、動画サイトやSNSを活用したりして、試験や受験先についての情報を集めました。試験準備も大変ですが、官庁訪問はまた違った大変さ、緊張感がありますよね。

宮崎：ですね。でも、何事も第一印象が重要だと思いますので、身だしなみを整え、大きな声でハキハキしゃべることを意識し



宮崎 泰生
自治行政局地域政策課

て、あまり気負わず、リラックスして臨めば大丈夫だと思います。

野尻：入省すれば、面接官の方も一緒に働く仲間になりますからね。緊張しすぎず、自分のことを知ってほしい、相手や志望官庁のことを知りたいという思いで、自然体で会話を楽しむと良いと思います。

田中：面接官とのコミュニケーションという点でいうと、面接で話す内容を事前に作り込み過ぎないことも大事ですよ。質問されたことに答え、対話を通して、より総務省を知ろうと思う姿勢が大切だと思います。

渡邊：私も、自分が伝えたいことばかりに気を取られずに相手の話す内容を聞き、それに対して回答することが大事だと思います。一日に複数回面接することになるので、ここをこうすればよかったかもと思っても、気にせず、落ち着いて臨んでください。

周りの職員や職場の雰囲気はどうか？また、入省後に感じたギャップはありますか？

田中：穏やかな方が多く、相談しやすい雰囲気で、テレワークや時差出勤など働き方も柔軟に選べる環境だと思います。同じの課の方とは、ランチに行ったり、仕事終わりに飲みに行ったりもします。

野尻：テレワークは思った以上に浸透していますよね。テレワークをする前は、仕事しがづらいイメージがありましたが、実際には、オンラインツールを活用して打合せや研修ができ、スムーズに業務が行えました。また、チャット機能を使った同僚や同期との雑談でリフレッシュしたりしています（笑）

渡邊：私の部署も、賑やかで、議論や雑談をすることもあります。入省当時は職場に馴染めるか不安でしたが、質問をすると何でも快く答えてくれる先輩方ばかりで、すぐに馴染むことができました。また、想像していたよりも風通しがよかったです。入省して2年が経ちますが、そんな私の意見も聞いていただけるので、やりがいにも繋がっています。

宮崎：公務員という、「上司の言うことは絶対」みたいなイメージがありましたよね（笑）

田中：ですね（笑）でも実際に働くと、渡邊さんとおっしゃるとおり、時には若手からも意見を言ったりしつつ、同僚や関係者との議論を重ねながら物事が進んでおり、そういったことがモチベーションに繋がっています。

モチベーションに繋がっています。

宮崎：私が所属する課は、皆さん仲良く、明るい雰囲気なのはもちろんですが、地方公共団体との人事交流により派遣されている職員の方が多いですね。全国に知り合いが増えるのはとてもうれしいです。

渡邊 空
統計局統計調査部
国勢統計課指導係

す。

野尻：職員は地方公共団体に限らず、地方支分部局等も含め全国各地から集まっているので、それぞれの地元の話など業務外の話で盛り上がることもありますよね。コロナが収束したら行きたい場所が増えました（笑）。

将来、携わってみたい仕事はありますか？

宮崎：自治体DXの推進に携わってみたいですね。コ

ロナ禍で行政サービスの効率化はより一層重要になってくると思うので、自治体の負担を軽減する手助けができればと考えています。

渡邊：私は、様々な角度から統計をみたいと思っています。調査や担当する業務によってみえるものが違うので、多くの調査を経験して多角的な視点で統計をみられるようになりたいです。

野尻：私の所属する行政評価局は、管区行政評価局など全国に異動する機会があるので、その地域特有の課題を学び、改善方を考えたいです。また、余暇を利用して観光をしたり、その土地のおいしいものを食べたりすることも楽しみです。

田中：霞が関にとどまらないキャリアパスが用意されていることも総務省の魅力の一つですね。私は、日本のICT分野の海外展開に関わる業務に携わってみたいです。総務省には、国内のみならず、海外赴任のチャンスもあるため、ぜひチャレンジしてみたいと思っています。

受験を考えている方へ、メッセージをお願いします！

野尻：新型コロナウイルス感染症、プライベートとの両立など不安なこともあるかと思いますが、働き方改革のトップランナーである総務省では柔軟な働き方ができるので、安心して受験してください。

渡邊：とても大きな選択になるので、時間の許す限り考えてご自身の納得できる進路をみつけてほしいです。その中で総務省に魅力を感じたら、ぜひ受験してみてください！

宮崎：コロナ禍での働き方に不安を抱えているかもしれませんが、総務省では働き方改革に取り組んでおり、快適な職場環境が整っているので、ストレスなく勤務できると思います。ぜひ、一緒に働きましょう。

田中：私は、初め、国家公務員になろうか悩んでいましたが、説明会で職員の方々の話を聞いて、国家公務員になることを決意しました。少しでも総務省に興味をお持ちの方は、ぜひ説明会にお越し下さい！



田中 空
情報流通行政局 郵政行政部
貯金保険課

1 DAY

1日のスケジュール

放送制度の在り方を考える1日

情報流通行政局放送政策課

横山 洋侃 Yokoyama Hironao

MESSAGE

「ICTを活用し、様々な社会問題を解決しながら、より良い社会を作っていきたい」そんな思いで総務省に入省しました。総務省の業務は幅広く、日々勉強することが多いですが、困った時は上司や先輩職員へ気軽に相談することができ、安心して仕事に取り組んでいます。総務省に興味を持たれた方は、説明会に参加いただくなど、ぜひ総務省に足を運んでみてください！

1 MONTH

1カ月のスケジュール

地方税制度の一端を担う1ヶ月

自治税務局固定資産税課

若山 優希 Wakayama Yuki

MESSAGE

採用説明会や官庁訪問において、先輩職員方の地方行政に対する熱い思い、さらに地方勤務のご経験をいきいきと語られている姿に感銘を受け、私も同じような経験をしたいと強く思い、総務省へ入省することを決めました。業務内容が多岐にわたっているので、きっとやりたいことが見つかるはず。一緒に働ける日を心待ちにしております！

1 YEAR

1年のスケジュール

社会生活基本調査実施に向けた1年

統計局統計調査部国勢統計課労働力人口統計室
企画指導第三係

渋谷 恵利花 Shibuya Erika

MESSAGE

統計調査の企画に携わる中で地方公共団体や調査員、調査に回答していただく皆様など多くの方々との協力を得て調査を実施できていると感じています。多くの人に関わる調査をやり遂げるには難しいことが多々ありますが、知識の豊富な上司や先輩から様々なことを学び成長できるやりがいのある仕事だと思います。

10:00 **1日のスケジュール確認**
出勤後、まずはメールを確認します。その後、1日の課内スケジュール等を確認し、その日の流れを把握することで、業務が円滑に進められるよう努めます。

11:00 **上司へのご相談**
明日の検討会でご議論いただく点を上司にご相談します。ご指摘いただいた点を踏まえ、午後、検討会にご出席いただく事業関係者との打合せで再調整します。

15:00 **事業関係者との打合せ**
検討会の論点や流れについて、事前に事業関係者と打合せを行います。午前中に上司にご指摘いただいた点を中心に、最終調整を行います。

17:00 **検討会準備**
明日の検討会開催に向けて、資料の最終確認と会議室の準備を行います。今日は早めに退庁し、明日の検討会に向けてしっかりと休み、万全の状態で臨みます。

1週目 **申告に向けた事前準備**
固定資産税には、総務大臣がその価格等を決定して関係市町村に配分する制度があり、その申告事務に先がけ、提出していただく書類の確認作業を行います。

2週目 **配分作業の開始**
固定資産申告書が続々と提出されてきました。資産の額や、税が軽減できる特例措置などの要件に注意し、誤りが無いように担当者全員で確認作業を行います。

3週目 **価格の決定**
決定した固定資産税は、課税標準額ベースで数十兆円規模！そこから税率を乗じ、実際の税額となります。地方税収への影響を考えると身が引き締まります。

4週目 **通知と分析**
決定した内容について、地方団体や事業者へ通知を行います。資産の増減や特例適用の有無について質問を受けるため、回答や資料を作成します。

4~5月 **調査書類等の作成**
調査世帯へ配布する調査票などの調査書類を作成します。作成する書類等については、前回調査の課題を鑑みて一つ一つ議論しながら作成します。

6~8月 **調査方法の指導や広報活動**
調査の実務を行う都道府県に調査方法を指導したり、キャンペーンサイトの作成など調査について多くの人を知っていただけるように広報活動を行います。

9~11月 **調査実施期間の対応**
調査が始まり調査の対象となった方などからの問合せに対応しながら、調査が滞りなく進んでいるか、トラブルはないか日々状況を確認します。

12~3月 **調査のとりまとめ**
今回の調査の実施状況や課題をとりまとめ、次回調査に向けた改善点などを検討します。同時に調査結果の集計・公表に向けて準備を行います。





北海道管区行政評価局総務行政相談部首席行政相談官室

加藤 鞠花 Kato Marika

人々の暮らしと行政をつなぐ

より良い社会への一歩

総務省の行政相談では、国民の方から主に国の行政に関する相談を受け付け、担当行政機関と異なる立場から解決や実現を促進しています。

その中で私は、全国にある行政相談の窓口のひとつである北海道管区行政評価局で、電話やメール等で相談を受け付け、対応する業務に携わっています。

一言で行政相談と言っても、相談の内容は多岐にわたり、すぐに答えられるものもあれば、制度等を調べ関係機関に話を聞かなければ答えられないものなど様々です。

はじめは、何か相談者の役に立てるのだろうかとプレッシャーに感じることもありましたが、相談内容を丁寧に聞くよう心がけ、上司や先輩方からアドバイスをもらいながら、一つ一つ対応していくうちに、自身の成長にもつながったと思います。

行政相談を通じてより良い社会にすべく、日々、業務を行っています。

忘れられない言葉

行政相談は、職員だけが行うわけではありません。総務大臣から委嘱された行政相談委員の方が全国で行政相談の担い手となっており、その委員活動をサポートするのも私たちの重要な仕事です。

ある時、委員の方から受けた事案の対応について相談がありました。そこで、関係する法令や支援制度等について調べ、委員の方を通じて相談者へ回答したところ、「こんなによく調べてくれるのならもっと早く行政相談すればよかった」と大変喜ばれたとのことでした。このように、自分の仕事が誰かの困りごとの解決に役立ったことを実感できるのは、この仕事の最大の魅力ではないかと思えます。

総務省は、人々の暮らしと行政をつなぎより良い社会にしていける、そんな仕事ができる場所です。皆さんも「暮らしの中に総務省」の一員として、働いてみませんか？



関東総合通信局情報通信情報通信連携推進課長

新井 篤史 Arai Atsushi

地域におけるICT利活用の推進

現場の声を聞きながら

私は現在、関東総合通信局情報通信情報通信連携推進課に所属しており、ICTを用いた地域の課題解決や地域の活性化を目指し、本省が行っている政策を地域に届ける役割を担っています。例えば、他省庁や自治体、NPOと連携してセミナーを開催し、課題の抽出や成功事例を共有したり、自治体と地元企業等が進めるプロジェクトに参加して、本省が企画した施策を周知するなど、地域におけるICT利活用の推進に取り組んでいます。

コロナ禍により直接会って話をすることは限られていますが、Web会議等を通じ、関係者から直接現場の声を聞くことができ、事業全体を見る立場では気づけなかった改善点に気づくとともに、その地域のために何ができるか考えながら業務を行えることが総合通信局の醍醐味だと思います。



ICTを通じた社会貢献

総務省に勤務して魅力を感じたことは、多様なフィールドで活躍する方々と仕事ができるということです。自治体関係者、民間事業者、大学教授やNPOなど、それぞれの背景や事情を考慮し、相手が必要としているものを考える業務は、ICTを通じて社会に貢献していると実感できやりがいを感じています。また、様々な立場の方との議論を通じ、多様な考え方にふれることで、自分にはなかった新しい視点に気づくとともに、自分の知識や考え方がアップデートされ、成長を感じることがあります。

さらに、仕事と私生活にメリハリがついているところも、総務省の魅力の一つです。テレワークやフレックスタイム制をはじめ、働きやすい環境や制度が整っており、女性だけでなく男性も育児休暇を活用し、家族との時間も大切にしながら仕事に取り組んでいます。



南相馬市副市長

常木 孝浩

Tuneki Takahiro

平成14年 4月 総務省採用 消防庁総務課
 平成15年 4月 自治財政局地方債課
 平成16年 4月 栃木県総務部市町村課
 平成18年 4月 自治行政局自治政策課
 平成20年 4月 自治財政局財政課企画係長
 平成22年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課消防団係長
 平成24年 4月 各務原市都市戦略部企画財政総室財政課長
 平成26年 4月 自治財政局公営企業課公営企業経営室
 水道・工業用水道事業係長(自治財政局
 公営企業課公営企業経営室
 水道事業海外展開専門職併任)
 平成28年 4月 消防庁総務課会計第一係長
 平成30年 4月 消防庁国民保護・防災部防災課
 地域情報把握専門官(消防大学校庶務課
 主幹併任)
 平成31年 4月 自治財政局調整課主幹
 令和2年 4月 現職

福島県南相馬市のチャレンジにご注目ください!!

課題先進地にて日本の未来を変える

南相馬市は原発事故の影響で避難指示が出され、津波でも市域の約1割が浸水するなど東日本大震災で甚大な被害を受けました。人口は大幅に減少し、未だ多くの方が市外で避難を続けています。生まれる子供の数は震災前の半分。新産業の創出、農業の再生も必要です。地域医療や介護環境にも課題がまだまだ。移住施策や人材育成にも力を入れています。新型コロナも絶賛対応中です。これら全てについて市長を支え、課題を設定し、解決策を検討・実行するのが私の役割です。課題は本当に多い。間違いない。ですが、それだけにやりがいを強く感じています。「課題先進地での取組は日本全体にとっても貴重なんだ」とのモチベーションで挑戦を続けています。成果も次々出ています。最近嬉しかったのは雑誌のランキングで「若者が住みたいまち」・「子育て世代が住みたいまち」で東北第3位に選ばれたことです。紙面の都合上、他の取組は市HPにて。

豪快に横串を刺す

「ゼネラリストはいらない。スペシャリストが必要だ」。本当でしょうか。そんな事は全くないと感じています。当然シビアな要求に耐えうる分野があるのは自信になりますが、両翼が広いこともかなり重要です。スペシャリストな人は本当にたくさんいます。勿論それを目指すもよし。ですが、課題解決のためにそういった人達を繋いだり、各分野も跨いだり、隙間を埋めたりする人材を目指すのも「あり」だと思います。課題はどんどん複雑になっています。豪快に横串をさせる人材が社会には必要なんです。

総務省はまさにうってつけ。経験と専門性のバランスを考えてくれます。私自身、消防庁が一番長く、東日本大震災や熊本地震も対応したので危機管理には一定の知見がありますが、3度地方に向出し、財政局では文部科学分野や水道事業、行政局では地域活性化を担当しました。変わり種では宇宙基本法にまつわる業務も。皆さんはどのように社会に貢献しますか？

WEEK SCHEDULE

MONDAY

事業構想大学院大学と新規プロジェクトについてのオンライン会議です。

TUESDAY

日本郵便との包括連携協定の調印式に参加です。

WEDNESDAY

避難指示解除から5年を経て念願の市立総合病院附属小高診療所が開所しました。

THURSDAY

市議会に出席後、教育・子育て施策について担当課を集めて協議です。

FRIDAY

議会に追加提案する補正予算を副市長として査定します。

PRIVATE TIME

新型コロナの影響でなかなか計画どおりにはいきませんが、週末は自転車でおいしいものを食べに行くことが多いです。意外かもしれませんが福島にはおいしいラーメン店がいっぱいあります。コロナが落ち着けば福島だけではなく、南相馬を拠点に東北中を旅行したいと思っています。今年は大型自動車免許の取得も計画しています。



総務省から自治体へ

守口市企画財政部長

西川 謙太 Nishikawa Kenta

総務省というところ

地方自治の最先端へ

私は今、大阪府守口市の企画財政部長として、コロナ禍における市民生活支援や事業者の事業継続支援の検討、市が目指す「ずっと住み続けたいまち守口」の実現に向け、子育て支援、学力向上、公園整備をはじめとする様々な事業の予算編成、行政のデジタル化、広報など様々な業務に携わっています。

地方行財税制度などを所管する総務省の職員は、霞ヶ関の中だけで汗をかいているわけではありません。私たちにとって最も身近な自治体である市町村で働き、市町村の現場で様々な意見を見聞きし、市役所職員のみならず、そして住民の方々と一緒に市を盛り上げていくために汗をかく機会があります。

また、このような機会を経て、現場感覚を持ちつつ、国として、自治体に混乱が生じないように気を配りながら施策を講じることができ、それが国民・住民の暮らしやすさに繋がっていく、このような姿勢で仕事ができるのは総務省の大きな魅力の1つです。

個性溢れる人材の宝庫

今この資料を手に入れている皆さんは、職業選択の岐路に立ち、希

望や不安な気持ちを抱えていることかと思えます。

総務省には、様々な自治体から多くの職員が派遣されてきます。少しでも多くのことを吸収し派遣元に戻って活躍したいという非常にエネルギーに仕事に取り組んでいて、それに負けじと総務省職員も切磋琢磨しつつ一緒に成長できる環境があります。頼りになる見習うべき上司や先輩方にもたくさん出会いました。苦楽を共にし、どんな悩みも相談できる心の支えとなる同期が私にはいます。人生の多くの時間を過ごすかもしれない場所で、社会人として人として成長できる、総務省はそんな職場だと私は思っています。

皆さん、是非、総務省の採用のドアを叩いてみてください。



朝来市企画総務部政策担当部長

大林 崇人 Obayashi Takahito

地域の実情を知る

市民一人一人の幸せを目指して

朝来市は、兵庫県のほぼ中央部に位置した人口約3万人の自治体であり、天空の城とも呼ばれる竹田城跡や、日本遺産である生野銀山といった観光名所が有名です。

現在、私は市の政策担当部長として全庁的な各種計画の策定や行財政改革、地方創生、地域公共交通などに関する業務を担当しています。

この度、市の最上位計画である第2次総合計画が令和3年度で終わりを迎えるため、令和4年度を始期とする第3次総合計画の策定に従事しました。これまでは、急速な人口減少への対策を市の最重要課題として取り組んできましたが、新たな計画では、将来像「人と人がつながり 幸せが循環するまち ～対話で拓く朝来市の未来～」の実現に向け、市民一人一人が主役となり、市民との対話と対話として、市民が幸せを実感できるまちづくりに取り組みます。

自治体での経験を国で活かす

総務省は、地方のための制度設計を行う省庁であり、当然、地域の実情について把握する必要があります。自治体ごとに地域の現

状を抱える課題は様々ですが、一つの自治体でも自治体単位によって実情は異なります。

私は今、市の地域公共交通について、地域の実情に応じた運行体系の見直しを検討して

いますが、地理的条件や歴史的背景だけでなく、そこに暮らす方々の思いや考え方によっても市民ニーズは異なるため、誰もが納得できる施策を考えることの難しさと、地域の実情を理解し、地域の方々に思いを馳せながら施策を考えることの大切さを肌で感じています。

総務省ではそういった自治体勤務の経験ができるだけでなく、その経験を活かし、国として何をすべきかを考え実行できる職場ですので、ぜひ総務省職員として地方の発展を支えていきたいと思います。



長崎県地域振興部市町村課

石井 沙織 Ishii Saori

地方で経験と想いを育む

現場を知る

現在私は長崎県庁市町村課で、市町の財政に関わる仕事をしています。具体的には、下水道事業など公営企業に関する業務や、財源である地方債の業務を主に担当しています。

長崎県は離島を多く有していることもあり各21市町の特性は大きく異なるため、市町に合った助言等が必要となります。業務にあたる中で、法令等を参照するだけでは判断が困難な事例にぶつかることもありますが、県庁の関係部局とも情報共有・連携を図り、検討を重ねながら業務を進めます。ときには、国へ相談や掛け合うこともあります。

市町をサポートする立場として、多くの判断材料にあたり様々な可能性や選択肢を考えながら、少しでも市町の役に立てるよう心がけています。視察や日々のやりとりを含め、市町に近い立場で業務にあたり、現場を知る貴重な経験をさせてもらっています。

「ふるさと」への恩返し

入省後に在籍していた自治税務局では、他省庁や各政党の議論、法令改正など国でしか経験できないような非常にダイナミックな

業務に携わりました。その中で、地方のことを心から想いながら働いている職員の方々が、使命感を強く持ち、より良い制度を考え、深い議論を重ね、制度に反映していくとい

うプロセスを体感したことは、刺激的で、非常に大きな経験でした。

職員各々が地方赴任の経験を活かし、また、各々の「故郷」を胸に、より良い制度を目指していく。これは総務省だからこそできることであり、大きな魅力の一つだと思います。

私自身、第二の故郷・長崎県で得た経験やご縁が今後の自分の糧と力となり、総務省での業務にも生きていくものと感じています。地方自治に少しでも興味がある方、是非一度職員の話聞きにいらしてみてください。



宮崎県総務部市町村課

渡邊 千晴 Watanabe Chiharu

国から地方を、地方から国を考える

地方自治の現場からの気づき

私は今、宮崎県庁市町村課で、主に税制度について市町村のサポートを行っています。

国の制度は年々変化していきますが、制度として成立するには、実務を行う市町村の協力が必要不可欠です。市町村課では各市町村が円滑に業務を運営できるよう、国の制度に関する周知や助言を行っています。制度の目的や背景を丁寧に説明することはもちろん、市町村ごとの課題に寄り添って考える必要があり、制度だけでなく「宮崎県」のことも日々勉強の毎日です。

また、市町村職員とやりとりする中で、国の制度に対する新鮮なご意見をいただいたり、自分自身も県の立場から国を見ることで、「ここはこうした方が良いのでは」と感じたりすることもあります。霞が関からは見えにくい、現場ならではの気づきを得られること、これは地方出向の大きな強みだと思います。

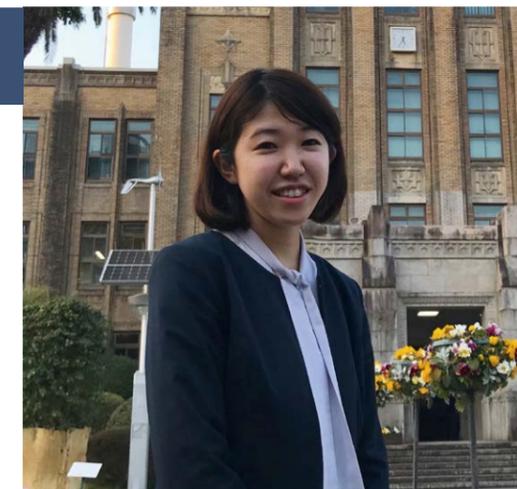
人とつながり、地方とつながる

皆さんと同じように将来について考えていた頃、私は「地方のために働きたい」と思い総務省を志望しました。このとき考えていた

「地方」は漠然としたものでしたが、総務省でのたくさんの出会いを通じて、「地方」というのは、支え、貢献したい存在として自分の中により強く感じるようになりました。

総務省は地方を思うたくさんの人と繋がれる職場です。地方出向を経て第2第3のふるさとを思いはたらいた先輩職員、地方自治体から総務省にいられている職員、地方出向で出会えた方。その繋がりは年数を重ねるごとにどんどん広がっていき、自分の原動力になります。

貴重な出会いを経験でき、その繋がりを仕事に活かすことができるのは総務省の魅力だと思います。ぜひ一度、総務省の説明会にいらしてください。きっと心打たれる何かがあるはずです。



総務省から霞が関へ

幅広いフィールドで活躍する職員

内閣官房内閣人事局主査

藤田 浩輔 Fujita Kosuke

未来の行政のカタチを作る

社会の変化に対して柔軟に

私は現在、内閣人事局において、各府省からの機構・定員の要求に対して、効率的かつ効果的な行政組織及び定員配置を実現(役割を終えた分野の人的資源を、新たに必要とされる分野に投資)するための審査等の業務を行っています。

近年では新型コロナウイルス感染症の発生やデジタル技術の発達などにより、社会の在り方、人々の意識や行動が急速に変化しています。同時に、行政が果たすべき役割や組織のカタチも柔軟に変化する必要があります。行政需要の変化に対応した意味のある「投資」をするためには、各府省が直面する課題等を的確に把握し、世の中の動きを意識しながら、時には関係者と(熱い)議論を交わし、最適解を導き出すということの積み重ねが重要で、このプロセスはこれまで総務省で携わってきた行政評価局業務とも通じるものがあります。

行政の名医を目指して…

総務省で従事していた行政評価局の仕事は、行政の課題等を調査し(=症状の把握)、原因を分析し(=検査)、改善策を提示する(=

処方箋)という、いわば行政に対するお医者さんのような仕事です。

有効な処方箋を出すためには、原因分析が非常に大切です。関係府省の話だけではなく、現場の実態を徹底的に調べ、統計などのデータを活用したり、有識者から話を聞いたりして、その課題等が生じている真の理由を探っていく過程がこの業務の面白さだと思っています。加えて、先輩職員の知識・経験と若手職員のひらめき・発想をうまく融合していくことが重要で、そのために年齢・職種を問わず自由闊達に議論できる環境が総務省にはあります。

国を良くしたいという想いを持った皆さん、国家行政をマネジメントする総務省で、行政の名医を目指しませんか？



デジタル庁統括官付参事官付主査

定光 貴史 Sadamitsu Takafumi

3度目の出向で感じること

社会のデジタル化の最前線

デジタル庁は、「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」をミッションとして昨年9月に発足したばかりの省庁です。本年6月に、目指すべきデジタル社会の実現に向けて構造改革や施策に取り組むとともに、それを世界に発信・提言するための羅針盤となる「デジタル社会の実現に向けた重点計画」を閣議決定しました。この重点計画にも各府省庁の取組が多数記載されているように、社会全体のデジタル化の推進においては各府省庁が連携・協力することが必要です。その際、デジタル庁はデジタル社会の実現に関する司令塔として、利用者目線で適切にニーズをくみ取ったサービスを提供することによる国民の利便性の向上など、主導的な役割を担い、関係者によるデジタル化の取組を牽引していきます。

ICTはデジタル社会の必需品

ICTの可能性に惹かれて総務省に入省しましたが、この10年でスマートフォンの普及などにより、ICTの裾野はとてつもなく広がってきました。私は、デジタル庁以外にも地方公共団体、内閣府への出向を経験していますが、地方公共団体ではICTを活用した地方創生、内

閣府では沖縄振興に向けたICTインフラの普及やその利活用等も担当しました。総務省だけではなく出向先においてもICTに携わる機会があることから、ICTがいかに社会に溶け込んでいるかを実感しています。

デジタル社会の実現に必要な不可欠なICT基盤の整備や最新技術の研究開発、利活用の推進など、ICTの可能性の広がりにあわせて総務省が担う役割はますます大きくなっていきます。ICTの発展やデジタル化の進展に興味がありましたら、是非総務省の門をたたいてみてください。



内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部国民生産課

鶴島 元樹 Tsurushima Motoki

得意が活かせる場所

公的統計を理解する

内閣府経済社会総合研究所は、SNA(国民経済計算体系)の推計や経済社会活動に関わる研究などを行っており、私は公的統計の中でも特に重要視されている「四半期別GDP速報」の供給側推計を担当しています。四半期別GDP速報は、速報性を重視し年に8回公表されており、日本経済の動きを反映した統計として、特にコロナ禍においては注目度が高く、常に緊張感を持って取り組んでいます。

供給側推計では、総務省をはじめとした中央省庁等の多種多様な公的統計を用いて、百近い財・サービス品目別に推計を行います。公的統計はそれぞれ性質が異なるため、統計をよく理解して推計することが重要ですが、総務省で学んだことが役立つことも多くあります。推計に用いるシステムも一部担当しており、自分の得意分野を仕事に活かすことができた時にやりがいを感じます。

幅広い人材が輝く職場

私は統計やデータが好きで、総務省に電気・電子・情報区分で入省し、データベース関連業務や調査システムの設計開発業務、統計調査の結果審査・発表業務などを担当してきました。統計調査の

企画担当と一丸となって資料を作成し、実際に地方公共団体へ統計調査の説明に行くこともありました。自分が携わった仕事が形となっていくことは非常に達成感があります。

総務省では専門的な研修が充実しています。また、上司や先輩から仕事を教わり働いていく上で、知識がどんどん身につく、苦手な分野でもこなせる業務が増えていきます。こうした知識は、独学では学べないことも多く非常にありがたいことです。

統計に限らず、総務省では幅広い所管業務があり、皆さんの得意な分野を活かせる仕事があるはずです。得意を活かせる場所、探してみませんか。



内閣官房副長官補(事態対処・危機管理担当)付

矢澤 秀訓 Yazawa Hidenori

災害大国ニッポンに向き合う

国の危機に立ち向かう仕事

私の勤務先である内閣官房に属する、通称「事態室」と呼ばれる組織は、大規模な自然災害をはじめとした様々な緊急事態の対処に関する中心的役割を担っています。ここでは、何かあれば、すぐさま総理大臣官邸内の危機管理センターに駆けつけ、各省庁と共に事態対処に当たります。国の持てるリソースを総動員し、様々な自治体・民間事業者等とも連携しつつ、日本の危機に立ち向かう業務は、プレッシャーがありますが、得難い経験をしているとも感じます。また、内閣官房は主に各省庁の出向者で構成されており、総務省内では接点が少ない方と業務に当たります。他省庁の方々とともに働き、知らない世界に触れることで、自分の成長にもつながる点も出向の良いところのひとつです。

人のつながりを支える通信インフラ

災害等の対応をしていると思うことは、「緊急時における情報入手手段や通信手段の確保は非常に重要」ということです。土砂崩れ等で生じた孤立地域など、被害が大きい地域といち早く連絡がつくことで、被害状況や必要な支援内容を早期に把握でき、迅速な対応に

つながります。みなさんも災害時には、テレビやラジオ、インターネット等で情報収集されることが多いと思いますが、そのためには、災害時にも安定的に使うことのできる情報通信環境が欠かせません。いざというときに通信や放送が使えるよう、民間事業者等と協力し、強靱な通信・放送インフラを整備していくのも、総務省の仕事の一つです。通信や放送を担う総務省は、最先端のICT技術で社会を豊かにする役割とともに、安全・安心という「守り」を固める役割も兼ね備えており、幅広い経験の出来る場所だと思います。



総務省から海外機関へ

幅広いフィールドで活躍する職員

国連統計部

新垣 真輝 Arakaki Maki

ニューヨークの国連本部から

国際統計の発展のために

私は今、研究員として、国連統計部でビジネス統計に関する基準策定、情報収集及び公表、各国の統計システム強化支援に携わっています。

国連では、日本を始めとする各国統計局及び関連機関の専門家によって、ビジネスの実態をより良く把握し、ビジネスと社会・環境とのつながりを明らかにするための手法など様々な課題についての議論が進められています。国連統計部は、これらの専門家会合を事務局として支えることで、国際統計の発展に寄与しています。

ここでの私のミッションは、統計先進国である日本が、国際統計の発展に貢献し続けられるよう、多国間調整の現場で情報収集を行うこと、そして国連統計部の一員として、専門家会合の資料作成、多国籍企業データ収集、統計ビジネスレジスターに関するオンライン研修教材開発などの業務を行い、知識と経験を得ることです。

点と点が広がり、つながっていく

総務省には、幅広い業務、研修、同僚と出会える機会があり、また、それらがつながりワクワクできる機会もあるかと思っています。

私の場合、統計局に入り、的確な統計を提供するためには、様々な協力者の声を聞き、社会経済情勢の変化に目を向け、地道に努力し続けることが大切だと先輩方から教わり、様々な業務に携わりながらも、英検や統計検定を受験したり、応用統計・データマイニングの修士号を取得したり、専門性を磨く時間を設けてきました。

それが今の国連の業務につながり、ここでも総務省で経験(国際会議に向けた調整、途上国への技術協力支援、地方自治体への研修など)は私の力となり、これまで勉強してきたことは私の土台となり、そして日本にいるビジネス統計など関連分野で経験を積んだ同僚たちの存在が私の支えとなっていると感じています。



外務省在大韓民国日本国大使館 一等書記官

小林 信一 Kobayashi Shinichi

海外で日本を考える

海外で日本を考える

私は現在、外務省に出向し、韓国の日本国大使館で外交官として勤務しています。主に情報通信分野を担当し、現地政府とのやり取りのほか、当地の情報通信の動向把握や政策・制度の調査などを行っています。

ソウルは物価や生活水準は一部で日本を超えている部分もあり、発展の勢いを感じます。また、ICTが隅々まで活用され、行政手続もワンストップで効率よく行われるなど、暮らしてみても便利さに感嘆することも多いです。韓国は、何事にもスピードが重視される文化で、政府の動きも早く、技術革新が早い今の時代にフィットする面もあるようです。

このように、様々な面で日本との違いを意識させられ、多くの驚きや気づきがありますが、この気づきの中で何が日本の政策立案の参考になるか、日々考えながら仕事をしています。

幅広い可能性が魅力

職員は基本的に約2年毎に異動がありますが、私は、総務省に入省してからこれまで、電波、放送、電気通信の業務に従事したほか、

海外研修(メキシコ)や他機関への出向、南米ペルーの日本国大使館で勤務する機会もありました。特に海外勤務では、日本では経験できない業務に携われたほか、余暇に旅行し、その土地をじっくり見て回れたのも得がたい経験でした。

このように、総務省の業務は幅広く、様々な経験を積むことができ、好奇心が旺盛な方にも向いている職場です。私自身も好奇心が旺盛なほうなので、この点を魅力に感じています。また、これまで海外を含む様々な場所で勤務したことで、視野が広がり、自身の成長にもつながっていると思います。少しでも興味を持たれた方は、ぜひ総務省へ足を運んでみてください。



(一財)自治体国際化協会

柿本 克俊 Kakimoto Katsutoshi

アメリカで日本の地域を想う

海外で日本の地方自治体を支援

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、私たちの生活を大きく変え、特に国境を超えた人の動きは大きく制限されることになりました。しかし、グローバル化の流れは変わることはなく、むしろ、モノ・金・情報の流動性は一層激しさを増し、それらは日本の地方自治体にも大きな影響を与えています。

私の勤務する自治体国際化協会は、全国の地方自治体の共同組織として、海外の7拠点に事務所を構え、諸外国における行政の視点や先進的な事例を調査・研究し、自治体における政策立案の参考にしてもらうとともに、デジタル化の進展やSDGsの推進等といった、社会経済情勢の変化を踏まえながら、地域産品の海外販路開拓やインバウンドの地方誘客等に取り組む地方自治体の支援を行っています。

経験という名の財産

総務省は、様々なフィールドに身を投げ、多様な目線・価値観を学びながら、地域のため、日本のために活躍できる場だと思っています。私はこれまで、霞が関や現在の海外勤務の他にも、地方自治体

で勤務する機会も得ることができましたが、これらの勤務は、より多くの人々との出会いを生み、自らの人間力を育むことに繋がっています。

また、これらの経験を通して得た

知識や人脈は、一步引いた目線で、日本の制度や地域が抱える課題を考える際の財産にもなっています。

現在は、日本と同じような政策課題に直面する北米の自治体職員等と「今の激動の時代の中で、行政にとって何が最善か」を日々、議論しています。このように、様々な場所で貴重な経験を得ながら、日本の地域のこれからを考えることができるのは、総務省ならではの魅力だと思います。



外務省在チリ日本国大使館 一等書記官

輿石 美和 Koshiishi Miwa

デジタルハブを目指すチリにて

デジタルハブを目指すチリでの業務

私は、日本から遠く離れた地球の裏側の国「チリ」で、主に情報通信分野の情報収集やインフラ輸出に向けた日本企業支援を行っています。

チリは南米地域の「デジタルハブ」となることを目指しており、アジアと南米を結ぶ初の光海底ケーブル敷設プロジェクトを主導したり、昨年初めには南米初の5G導入国となる等デジタルインフラへの関心が非常に高い国です。そのため、日本の優れた先進技術の導入事例への関心も高く、総務省と大使館が連携してチリ政府向けのセミナーを開催する等両国の知見の共有を行っています。

また、霞が関とは異なりチリの大統領は小所帯のため、経済分野以外にも政治や文化といった分野の業務を経験することができます。昨年はオリパラホストタウンの業務を担当し、チリの選手たちと日本のホストタウンの橋渡し役を経験できました。

国内を経験した上で感じる国際関係業務の魅力

総務省への入省を決めた理由の1つは、情報通信を通じてグローバルな仕事ができるという点でした。最初の配属先である国際機

関を担当する部署では国際会議に出席する等、貴重な経験ができましたが、国際場で活躍するためには国内のことももっと経験すべきと感じ、その後は国内分野の業務を経験

させてもらった上で、今、在外公館での業務ができていることに大きなやりがいを感じています。

また、今、チリには十代の娘二人を連れてきていますが、幼少期には育児休業を活用して夫のインド駐在に帯同し、職場復帰後も時短勤務を活用しました。育児に手がかからなくなった今は、「ワークライフバランス」の観点で、職員の家庭事情と意向に応じた働き方ができる土壤があることも総務省の魅力の1つです。





情報流通行政局情報流通作品振興課
製作環境係長

笠井 英和

Kasai Hidekazu

平成22年10月 総務省採用
情報流通行政局放送政策課
平成23年9月 大臣官房総務課国会連絡室
平成24年8月 大臣官房企画課情報システム室
平成26年8月 情報流通行政局地上放送課
平成28年10月 情報流通行政局情報流通振興課主査
平成30年8月 大臣官房秘書課秘書第四係長
令和元年7月 大臣官房個人番号企画室主査
令和2年4月 政策研究大学院大学院
(人事院行政官国内研究員)
令和3年4月 現職



エクス・アン・プロヴァンス政治学院
(人事院行政官長期在外研究員)

小嶋 麻友

Kojima Mayu

平成27年4月 総務省採用
情報流通行政局郵政行政部郵便課
国際企画室
平成29年7月 大臣官房総務課国会連絡室
国際周波数政策室
令和元年7月 総合通信基盤局電波部電波政策課
国際周波数政策室
令和2年4月 総合通信基盤局電気通信事業部
データ通信課
令和3年7月 現職

多様な経験を通じて得られるもの

総務省の外に身を置くことで得られる経験や視点

私は昨年度まで、人事院の行政官国内研究員制度を活用し、政策研究大学院大学で、情報通信分野における様々な政策事例から、効果的な政策に必要な要因に関する研究を行っていました。「ケーススタディ」とは、現実起こった個別具体的な事例を分析し、様々な要因や法則を導き出す分析手法です。実施する環境や主体などの違いから、同一のものが存在しない政策の分析において、個別具体的な事例からいかに多くの要因を導けるかは重要なスキルであり、これまで総務省や他国で実施してきた情報通信政策事例から、成功要因や阻害要因、それらの関係性などを分析する手法を学びました。

業務経験がある程度積んだ状態で、総務省の外に身を置き、日々の業務から一度離れて学術的に政策と向き合う経験は得難く、研究を通し、大きく視野が広がりました。今後は、大学院での経験やネットワークを活かし、実務に反映させていきます。

自己の成長を実感できる仕事

これまで総務省では、放送や情報通信、マイナンバーなど様々な業務に携わってきました。いづれも生活に身近なインフラに関する業務であり、最先端の技術の検討からその技術を活用できない方へのサポートなど、様々な視点でいまを捉える必要があります。そのため、先輩後輩関係なく「〇〇さんはどう思う?」というような問いかけが多く、自分の考えや意見を自然に伝えながら仕事を進めていきます。そこで求められるのは知識ではなくその人ならではの視点や発想であり、それらを伝え合うことで自己の価値観の広がりも感じることができます。また、総務省は、自宅でできる仕事は積極的にテレワーク、という職場であり、超過勤務も最小限に抑えられるよう頻りに係内で業務を調整するため、プライベートに多く時間を割くことができます。総務省の良さはこのような仕事観を持った方が多いことで、仕事でもプライベートでも自己の成長を実感できる職場だと思います。

PRIVATE TIME

以前は職場の仲間でバレーボールや皇居ランで汗を流し、ビールで喉を潤していましたが、コロナ禍で子どもたちと過ごす時間が充実しました。最近是一緒にかけっこをしたり、DVD鑑賞することで気持ちをリフレッシュしています。育児を楽しむことで、日頃の運動不足の解消と仕事への活力をもらっています!



Q 総務省(情報通信分野)を志望した理由は何ですか?

A 官庁訪問で対応してくれた職員の方が、親身に人の話に耳を傾ける姿勢であったことから総務省を希望しました。そのため、本当に自分が興味のある業務に携わることができるか不安もありましたが、総務省は様々なフィールドがあり、入省後には、これまで想像もできなかった自分の関心事項を、業務を通じて発見することもあり、直観ではありましたが、総務省を選んでよかったと思っています。

Q 入省後、成長したと思うことは何ですか?

A これまで様々な業務を経験しましたが、一人で出来る仕事には限界があり、多くの人の関わりを通じて結果が大きく変わることが多いです。そのため、職場のメンバーはもちろん、仕事で知り合った人から様々な情報や経験を聞き、それを仕事に反映する能力は成長していると思います。技術進歩が早い分野の仕事であるため、日々変わる状況に応じた対応力や幅広い知識の取得はもちろん大事だと思いますが、それ以上に、人との関わり方は大切だと感じます。

フランスで振り返る7年間

学び直しの日々

南フランスに位置するエクス・アン・プロヴァンスで、長期在外研究員として研究に従事する、これが現在の私の仕事です。長期在外研究員制度は、若手行政官を対象とした人事院の研修の一つで、2年間の派遣期間で修士号を取得します。この制度のもと、留学一年目の今年も、フランスを中心としたヨーロッパの政治史、比較政治制度、国際関係論などについて、フランス語の激流に飲み込まれそうになりながら学び、議論を交わしています。

講義ではアカデミックな観点が主ですが、ヨーロッパの中での自国の位置付けや、歴史的な課題の提示方からは、EUの屋台骨であるこの国の自画像が透けて見えます。予復習に追われるなか、明瞭な問題設定、バランスの取れた論理展開の技法など、フランスの強かな外交の基盤を掴もうと、日々努力しています。

成長を可能にする場

総務省は、若いうちからやりがいのある業務を担うとともに多様な業務を経験でき、行政官としての成長を感じられる職場だと思います。

私は、入省してから数年、郵便や情報通信技術に関する国連専門機関の担当者として、他国との交渉や百数十カ国の代表団の前で日本の立場を述べるなど、世界の最前線の業務を経験しました。その後、国際分野だけでなく、法律の制度運用も経験してみたいと希望し、電気通信事業の許認可も担当させていただきました。現在は、これらの業務経験を踏まえ、各国の情報通信技術に関する知識や多様なステークホルダーとのコミュニケーション能力を高めたいと思い、フランスにて自己研鑽に努めています。

このように、総務省は成長するための多様なキャリアパスが用意されており、スキルアップすることが可能な職場です。色々なことにチャレンジしてみたい方、ぜひ一緒に働き、ともに成長しましょう。

PRIVATE TIME

週に1冊、学業とは関係のない本をフランス語で読むようにしています。当初は語学力向上が目的でしたが、友人や書店員の推薦本から、移民、貧困、フェミニズムなど今日の社会問題について深く知ることができました。また、時間を見つけては各地の美術館や劇場に足を運び、ヨーロッパの文化を堪能しています。

Q 今後、どのような業務に挑戦したいですか?

A 食や漫画などを通して日本文化はフランス社会に浸透しました。しかし、経済や政治の文脈では日本の存在感は低下していると感じます。今後は、国際機関などで、日本が国際社会の一員としていかに信頼を獲得し、責任を果たすかという課題に取り組んでみたいと思います。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージ

A 国家公務員としての職務は、地道で単調だったり、長年の慣習にぶつかったり、もどかしい思いをすることも多々あります。しかし、その一つの積み重ねが、国のかたちの基礎となり、また、自身の経験となります。無数の将来の選択肢から一つに絞るのは不安を伴いますが、自分にとってゆずれないものは何か見つけて踏み出してください。



総務省における ワークライフバランスの推進

総務省では、全ての職員が仕事とプライベート双方の満足度を高めつつ、職員一人ひとりの能力を最大限発揮できる職場環境を整備するため、「働き方改革・業務見直しの取り組み」や「テレワークの更なる推進」に省を挙げて取り組んでいます。

働き方改革・業務見直しの取り組み

総務省では、2017年に働き方改革推進室を設置し、大臣をはじめ省幹部の強力なリーダーシップの下、働き方改革に積極的に取り組んできました。

2018年1月には、総務省職員有志メンバーで構成される働き方改革チームが結成され、幹部による「働き方宣言の作成」や「定時退庁放送による呼びかけ」等による超過勤務縮減の取組や、「多面観察」(部下から上司の評価も行ういわゆる「360度評価」)の導入、「1 on 1 ミーティング」(上司と部下との間で行う1対1の対話)の実施など、様々な取組を進めてきました。

2019年12月からは、働き方改革推進室を「働き方改革・業務見直し推進室」に改組し、全省的な業務見直しを進めるため、RPAの導入やマクロの活用など、有用なツールや好事例の紹介を行う省内勉強会を開催しています。

また、毎年の働き方に関する職員アンケートの実施や目安箱により、職員の生の声を聞くことで、必要な改革・見直しが何かを把握し、より一層、働きやすい職場環境となるよう、日々取り組んでいます。

テレワーク等を活用した理想の働き方の実現

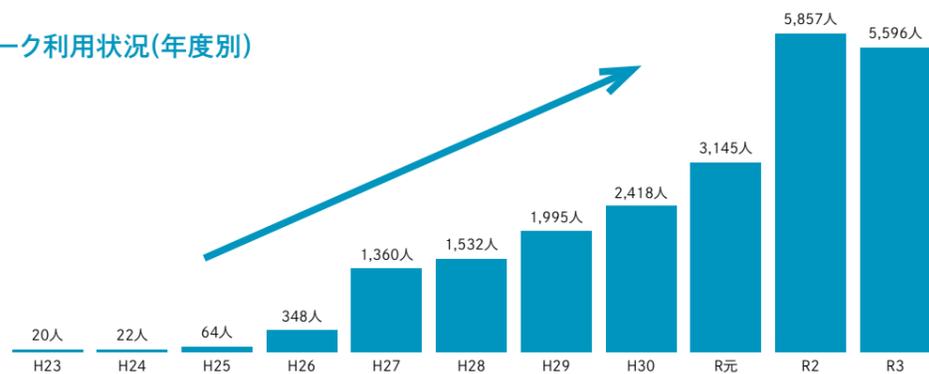
テレワークの活用は、ワークライフバランスの実現に欠かせない要素であるだけでなく、感染症予防対策の一つとしても、更に重要性が増しています。現在も、職員にテレワークの活用等を推奨しておりますが、単にテレワークの実施回数のみを追い求めるのではなく、テレワーク勤務の質の向上を図ることにより、日常の働き方として、更に定着させることを目指しており、ペーパーレス化の更なる推進や、打ち合わせや会議のオンライン化、業務の仕方そのものを見直す等、より一層の環境整備にも取り組んでいます。

また、フレックスタイム制や介護休暇等、両立支援制度を活用する職員も増加しています。職場における男性職員の育児休業に対する理解も進んでおり、取得率も5割に達しました。

総務省は、今後も、育児や介護、自身の障がいなど、様々なバックグラウンドを抱えた職員のみではなく、プライベートを充実させたい職員等、全ての職員のワークライフバランス実現に向けた取り組みを進めていきます。



テレワーク利用状況(年度別)



注1：令和元年度以降の実施人数は、非常勤職員を含む。

注2：人事異動により本省・地方局等それぞれにおいてテレワーク勤務を実施した職員については、重複してカウントしている。

統計局統計情報利用推進課統計専門職

古屋 翔子 Furuya Shoko

柔軟な働き方で 仕事と子育てを両立する

私は現在、昼休みを15分短縮し、2時間の育児時間を取得して働いています。親族が遠方にいるため、基本的に毎日夫と2人で子育てをしています。

慣れないうちは仕事と子育ての両立は困難の連続でしたが、先輩方からアドバイスを頂き、働き方を工夫することで、徐々に負担を減らすことができました。また、育児時間を取得しながらも、海外出張を経験させていただくなど、やりがいのある仕事ができている。



日々の業務では、勤務時間が短いため、周囲の方に負担をかけてしまう面もありますが、感謝の気持ちを忘れず、効率よく働いてなるべく多くの仕事をこなせるように心がけています。また、周囲の方がプライベートを優先しやすいように声をかけることを意識しています。

総務省では、年々柔軟に働くことができる環境が整い、育児と仕事を両立しやすくなっていると感じます。総務省で仕事と育児の両方を諦めない働き方をしませんか。



平成22年4月 総務省採用
統計局総務課審査係
平成23年10月 統計局統計調査部国勢統計課人口推計係
平成25年7月 行政評価局評価監視官付(厚生労働等)
平成26年10月 統計局総務課国際第一係
平成27年3月 育児休業
平成28年4月 統計局総務課国際第一係
平成29年10月 育児休業
令和2年4月 統計局統計情報利用推進課外国統計編集係
令和3年10月 現職

一日のタイムスケジュール

◆8:45AM
始業

テレワークの日は、朝食の後、保育園と小学校に子供たちを送り出します。その後、メールを確認し、業務の予定を立てながら始業時間を迎えます。

◆15:15PM
終業

15:15が定時ですが、テレワークの日は通勤時間を削減できるため、残業をすることもありません。当日の予定や業務の進捗状況に応じて働き方を変えています。

◆20:00PM
家庭学習見守り

夕食の後、上の子の宿題を見守り、わからない問題を一緒に考えます。小学校は毎日宿題が出るため、日課となっています。

◆11:00AM
係内打合せ

コロナ禍でテレワークが増えたため、毎日11時にオンライン会議を行い、業務の情報共有・報告・相談をしています。

◆15:30PM
習い事の送迎

上の子の習い事の日、可能な範囲でテレワークにしています。習い事の送迎の合間に、下の子を保育園に迎えに行き、買い物をしています。

◆23:00PM
就寝

子供たちを寝かしつけた後、読書など趣味の時間とってから就寝します。仕事と子育てで慌ただしい日々ですが、自分の時間をとることも大切にしています。

採用に関するQ&A

Q 1 総務省ではどのような人材を求めていますか？

総務省は、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信といった非常に幅広い分野を所管しており、それに対する課題は日々変化していきます。したがって、様々な業務や社会経済情勢の急速な変化に柔軟に対応でき、向上心の高い方を求めています。

Q 2 官庁訪問はどのように進むのですか？

官庁訪問を行う前に、行政管理・評価、統計、地方自治、情報通信の4分野の中から希望分野を選んでいただきます。その希望をふまえ、現在その分野で働いている職員を中心に面接を行います。ぜひ、官庁訪問を通じて、政策の最前線を体感してください。

Q 3 公務員試験の順位や年齢は採用に影響しますか？

人物本位での採用を行っているため、国家公務員試験を最終合格した方であれば、点数や順位、年齢は全く関係ありません。みなさんの魅力や熱意を存分にアピールしてください。

Q 4 統計や情報通信の専門知識や語学のスキルは必要ですか？

所管分野と関係のない学問を専攻していた方も多く採用しており、出身学部にかかわらず、様々なフィールドで活躍されています。また、業務に関する専門的な知識や語学については、研修が用意されています。入省時に特別な知識は必要ありません。仕事を進めながら活きた知識を身につけることが大事だと考えます。

Q 5 人事異動について自分の希望は反映されますか？

年に1度、今後のキャリアプランについて希望を伝える制度があり、この希望を考慮しつつ適性を踏まえて、配属・異動を決定しています。

Q 6 説明会情報はどこに掲載されていますか？

総務省一般職事務系・技術系採用ホームページに掲載しております。また、Twitterでも随時更新情報を投稿しておりますので、併せてご確認ください。

過去の採用状況

		令和3年度	令和2年度	令和元年度
本省		55(25)	57(25)	51(19)
地方支分部局	管区行政評価局 行政評価支局 行政評価事務所	26(11)	28(12)	20(8)
	総合通信局 総合通信事務所	62(26)	43(21)	53(21)
女性の割合		43%	45%	39%

※1：人数は各年度の国家公務員一般職試験（大卒程度）からの採用者数。カッコ内は女性の内数。
※2：各年度試験には10月等に採用された人も含む

MESSAGE

採用チームからのメッセージ

みなさんは、「総務省」と聞いて何を思い浮かべますか？

このパンフレットをご一読いただいてわかるように、総務省は、国の基本的な行政制度の管理・運営、地方自治や消防・救急行政、情報通信技術（ICT）を活用した成長戦略の実現と幅広い分野を担っており、この総合性を活かしながら、国民生活がより快適になるよう取り組んでいます。

しかし、これらは一朝一夕に実現するものではありません。

複雑化する社会課題に併せ、国民が求める“快適な暮らし”は、

刻々と変化していきます。

だからこそ、多種多様な価値観を持った人たちが、常にアクティブな行動力を持ち、国民目線で課題を捉え、暮らしの在り方を考える必要があります。

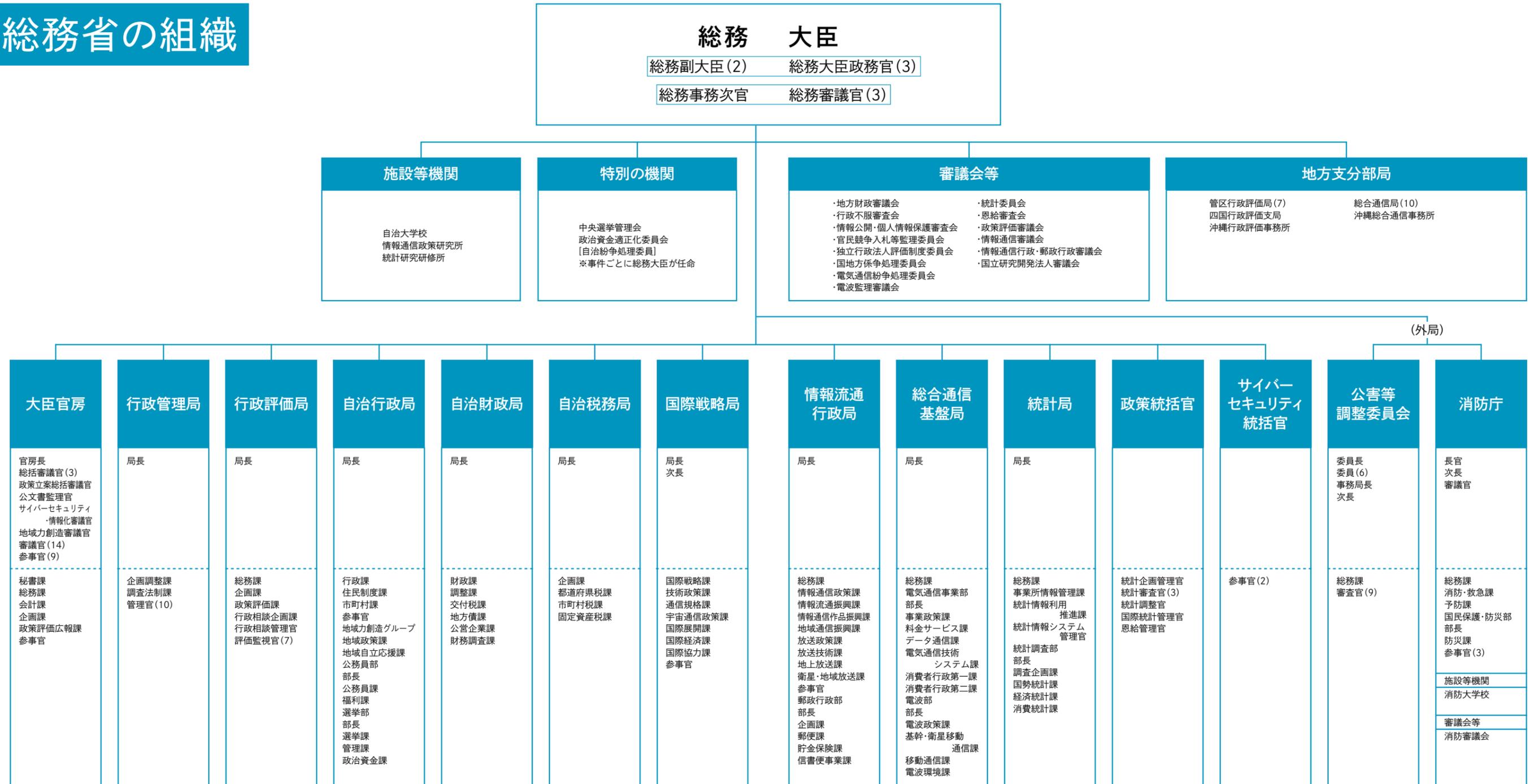
みなさんが思い描く“快適な暮らし”とは何ですか？

ぜひ、総務省を使って実現させてください。

総務省採用チーム一同



総務省の組織



(注) 組織図は政令以上で規定される主要組織のみを示している。(令和4年4月現在)

連絡先

総務本省 ※消防庁を含む

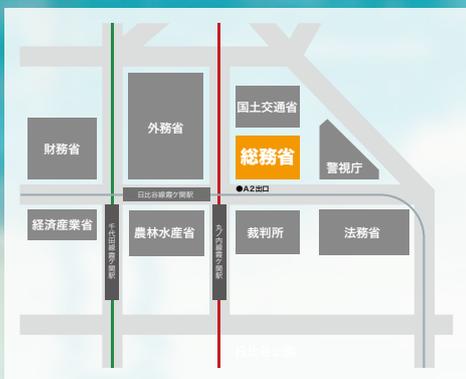
事務系	大臣官房 秘書課人事係	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館7階 03-5253-5111(代) 03-5253-5073・5074・5075(直)
技術系	【情報通信分野】 総合通信基盤局 電波部電波政策課	〒100-8926 千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館10階 03-5253-5873(直)
	【統計分野】 統計局 総務課人事係	〒162-8668 新宿区若松町19-1 総務省第2庁舎 03-5273-1118(直)

管区行政評価局

北海道管区行政評価局	総務課	〒060-0808 札幌市北区北8条西2-1-1 札幌第1合同庁舎	011-709-2311(代)
東北管区行政評価局	総務課	〒980-0014 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-262-7831(直)
関東管区行政評価局	総務課	〒330-9717 さいたま市中央区新都心1-1-1 さいたま新都心合同庁舎1号館	048-600-2300(直)
中部管区行政評価局	総務課	〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-5-1 名古屋合同庁舎第2号館	052-972-7411(直)
近畿管区行政評価局	総務課	〒540-8533 大阪市中央区大手前4-1-67 大阪合同庁舎第2号館	06-6941-3431(直)
中国四国管区行政評価局	総務課	〒730-0012 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎第4号館	082-228-6172(直)
四国行政評価支局	総務課	〒760-0019 高松市サンポート3-33 高松サンポート合同庁舎南館	087-826-0671(代)
九州管区行政評価局	総務課	〒812-0013 福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎	092-431-7081(直)
沖縄行政評価事務所	総務課	〒900-0006 那覇市おもろまち2-1-1 那覇第2地方合同庁舎	098-866-0145(直)

総合通信局

北海道総合通信局	総務部総務課	〒060-8795 札幌市北区北8条西2-1-1 札幌第1合同庁舎	011-709-2311(代) (内線)4607
東北総合通信局	総務部総務課	〒980-8795 仙台市青葉区本町3-2-23 仙台第2合同庁舎	022-221-0606(直)
関東総合通信局	総務部総務課	〒102-8795 千代田区九段南1-2-1 九段第3合同庁舎22階	03-6238-1625(直)
信越総合通信局	総務部総務課	〒380-8795 長野市旭町1108 長野第1合同庁舎	026-234-9964(直)
北陸総合通信局	総務部総務課	〒920-8795 金沢市広坂2-2-60 金沢広坂合同庁舎	076-233-4413(直)
東海総合通信局	総務部総務課	〒461-8795 名古屋市中区白壁1-15-1 名古屋合同庁舎第3号館	052-971-9106(直)
近畿総合通信局	総務部総務課	〒540-8795 大阪市中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎第1号館	06-6942-8507(直)
中国総合通信局	総務部総務課	〒730-8795 広島市中区東白鳥町19-36	082-222-3306(直)
四国総合通信局	総務部総務課	〒790-8795 松山市味酒町2-14-4	089-936-5012(直)
九州総合通信局	総務部総務課	〒860-8795 熊本市西区春日2-10-1 熊本地方合同庁舎	096-326-7809(直)
沖縄総合通信事務所	総務課	〒900-8795 那覇市旭町1-9 カフーナ旭橋B街区 5階	098-865-2301(直)



採用に関するお問い合わせ

総務省大臣官房秘書課

〒100-8926 東京都千代田区霞が関2-1-2
中央合同庁舎第2号館7階

Tel. (代表) 03-5253-5111 (内線21127/21151)
(直通) 03-5253-5073・5074・5075



総務省HP採用情報

https://www.soumu.go.jp/menu_syokai/saiyou/index.html



Twitter 総務省一般職採用アカウント

(説明会等の採用情報を随時更新しています。)
https://twitter.com/MIC_recruit